

『協働学習で学ぶスピーチ』

活動のヒント集

(教師用参考資料)

渋谷実希，勝又恵理子，古谷知子，前川志津，森幸穂 [著]



もくじ

教えて、パンダ先生！	3
------------	---

特長	6
----	---

使い方	7
-----	---

Part 2

Chapter 1. スウジコショウカイ [テーマ：自分のオリジナリティ]	9
---------------------------------------	---

相互評価シート Chapter 1.	18
--------------------	----

Chapter 2. 食べたいなあ～、あのお昼ご飯 [テーマ：説明力・伝える力]	19
--	----

相互評価シート Chapter 2.	27
--------------------	----

Chapter 3. しくじった！ 失敗から学ぶ教訓 [テーマ：伝える力・内容の価値]	28
---	----

相互評価シート Chapter 3.	40
--------------------	----

Chapter 4. ほりほり情報探索！ [テーマ：内容の深化・語彙力]	41
--------------------------------------	----

相互評価シート Chapter 4.	51
--------------------	----

Chapter 5. 愛されるつっこみ 質疑応答 [テーマ：質疑応答の力]	52
---------------------------------------	----

相互評価シート Chapter 5.	59
--------------------	----

Chapter 6. 責任を持って自慢しちゃいます！ [テーマ：責任を伴った発信力]	60
--	----

相互評価シート Chapter 6.	70
--------------------	----



教えて、パンダ先生！

Q1 どうして「協働学習」なんですか。

A 経験から、効果があることを実感しているためです。

我々は、口頭表現やスピーチの指導にあたり、「協働学習」を意識して行ってきました。学生が互いに情報を提供し合い、仲間の成長に責任を持つことにより、各自が自分の学びを達成していく姿を見てきました。

特に「スピーチで何を話すか」を考える過程では、適度に緊張がほぐれることが有効だと感じています。学生どうしで話すことで、アイデアが出やすくなり、話しているうちに考えがまとまっていく様子が見られるからです。さらにモチベーションへの大きな刺激となるのが、スピーチに対するクラスメートからの評価です。コメントを読む目は真剣そのもので、教師からの評価とは別の効果があることがわかります。

このように、「協働学習」のさまざまな長所を感じてはいますが、同時に難しさも痛感してきました。そのようなときは、教師どうしの「協働」によって、さまざまな突破口やアイデアを得ました。「協働」できる仲間を持つことは、教師にとっても大切だと実感しています。より学術的に詳しく知りたい方は、以下の参考文献などをご参照ください。

●「協働学習」の参考文献

池田玲子・館岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために—』 ひつじ書房

石黒圭・胡方方・志賀玲子・田中啓行・布施悠子・楊秀娥 (2018) 『どうすれば協働学習がうまくいくか—失敗から学ぶピア・リーディング授業の科学—』 ココ出版

志賀玲子 (2017) 「協働学習の可能性—異文化間教育の視点より—」 『一橋大学国際教育センター紀要』 8, pp.15-26

津田ひろみ (2015) 「協働学習の成功と失敗を分けるもの」 『リメディアル教育研究』 第10巻第2号, pp.143-151

津田ひろみ (2016) 「大学授業における協働学習の効果の検証—自律的な学習者の育成をめざして—」 『明治大学教職課程年報』 第38号, pp.133-143

藤田朋世・フランプト順美 (2009) 「ピア・ラーニングの概念を取り入れたスピーチコンテストの試み—重慶大学での実践報告—」 『日本語教育論集—世界の日本語教育—』 19, pp.199-213, 国際交流基金

Q2 協働作業が進まない、協力体制がとれないクラス／グループにはどう対応しますか？

A 早いうちに学生どうしの信頼関係を築かせるのがカギです！

スピーチが苦手だったり、人見知りが激しい学生の多いクラスでは、特に早い段階でお互いの信頼関係を築くラポールづくりが必須です。これに時間を割くことで、失敗しても怖くない、言いたいことが言える、話しやすいと思える環境をつくっておきます。すると、後の協働作業がスムーズになるだけでなく、クラスに一体感が生まれ、スピーチの上達が全体的に上がります。

具体的には、固い心と体をほぐすアイスブレイキング・アクティビティを、クラス全員またはグループで行います。机をどかしてストレッチ、輪になってフルーツバスケット、ジェスチャーゲーム、1人ずつ後ろに倒れ、それをグループで支えるトラストフォールなど、体を動かすことがポイントです。学期半ばでも、気分転換にアイスブレイキング・アクティビティを授業のはじめに行うことをおすすめします。子どもっぽいと思うかもしれませんが、これが実に馬鹿にできないプロセスです。教師のみなさんが一番楽しんでやると学生もやる気になります。

この「活動のヒント集」でも、各章にアイスブレイキング・アクティビティの例を載せました。ぜひ活用してみてください。

Q3 教師の役割は何ですか？ 教師はお手本のスピーチをする必要はありますか？

A 教師はファシリテーターです。教師のモデルスピーチは必要ありません。

教師は、授業を進めるファシリテーターであり、学生のアドバイザーです。この本ではスピーチの準備を学生たちが協力し合って進める協働学習で行います。教師は、その活動を行うためのファシリテーターに徹してください。準備の活動もスピーチの発表も、ぜひ学生主体で進めてください。

教師のモデルスピーチは必要ありません。教師がお手本を示すと、学生たちが教師の真似をしようとして、学生のオリジナリティが損なわれてしまうからです。学生たちが気持ちよくオリジナリティを出せるように、教師は今までの経験などを話して、アイデアのヒントを提供してあげるといいでしょう。

Q4 「学習者主体」とはどういうことでしょうか？

A 学習者が自分の学びに責任を持つことです。

学生どうしがただ楽しくおしゃべりをしたり、目的がわからないままさまようのは「学習者主体」とは言えません。学びの目標が何か、そのために必要なことは何か、やったことの成果があがっているのか、などについて学生が自分で把握しながら進むことが本当の「学習者主体」だと考えます。このテキストではさらに、自分だけの学びではなく、互いの成長についても責任を持つ「協働学習」のスタイルをとっています。相互に助言、指摘し合うことで1人では気づけない発見をし、成長してほしいと願っています。



Q5 アイデアが浮かばない学生への指導はどうしたらいいですか？

A **自分で書き出し、グループでの話し合いの中からアイデアを引き出すようにします。**

まず教師が知るべきは、学生の中には「みんなをビックリさせるような話、人に自慢できるような立派な話、他の人よりもおもしろい話をしなくては！」という気持ちが先行して、初期段階でつまづいている学生がいるということです。このようなタイプの学生は、人より優れた話をして「自分を良く見せたい」という深層心理が働いて、それが自由な発想を妨げていることがあります。まずは、「これはおもしろくない情報だ、平凡なネタだ」という思い込みを取り払い、話題について思いつく情報・ネタをいったんすべて出してみるように伝えてください。そして、話題についての情報、思いついたことは、自由に紙に書かせ、アイデアを見える化させましょう。それをもとに、グループ活動でクラスメートが質問したり、連想する言葉を言い合ううちに、話すべき情報・ネタが浮かび影りになります。教師は各章の学習目的に沿うような質問をして、グループの話し合いを活性化させてください。

Q6 オリジナリティは必要ですか？

A **必要です！**

日本の子どもたちや大学生の発表を聞くと、みんなが同じ内容をくり返しているように感じます。誰がどんな話をしたのか、印象に残らないのです。よくよくその理由を聞いてみると「目立つのが恥ずかしい」「みんなと違うことを言って変だと思われたくない」という心理があるようです。彼らの気持ちもわからなくはありませんが、これから社会へ、世界へ出ていくときには「自分」を表現し、印象づけていくことが求められるでしょう。その準備のためにも、また自分を確立していくためにも、学生時代からオリジナリティを探っていくことが大切です。

かといって、オリジナリティを大げさにとらえる必要はありません。華々しいことや自慢できるものでなくてもかまいません。一人ひとり育ってきた環境や経験が違うのですから、どんなに小さなことでもすべてがその人だけのオリジナルなはず。このヒント集には、学生のオリジナリティを少しでも引き出すヒントとなる活動がたくさん載っていますので、ぜひ活用してください。

Q7 緊張する学生や自信のない学生へはどう対処したらいいですか？

A **まずはクラスのラポールをつくっておくことがポイントです！**

スピーチの前にアイスブレイキング・アクティビティを十分に行い、クラスの間みんながお互いよく知っている、信頼できると思えるように、ラポールづくりをしておくといいでしょう。また、スピーチの本番前に、ペアやグループ内で何度もスピーチの練習しておきましょう。さらに、「はじめる前に」の活動にあるように、緊張した体験や克服術をペアやクラスで話し合っておくのも効果的です。

Q8 クラスの人数が多い場合はどうしますか？

A **発表を2、3回に分けましょう。**

このテキストでは、基本的に最初の授業で準備、次の授業で発表になっていますが、人数が多い場合は、発表を2～3回に分けるといいでしょう。2～3分のスピーチを30人クラスとする場合、学生が評価シートを書いたり、発表者が入れかわる時間などを考え、発表を2回に分けて1回の授業で15人ずつ発表とすると余裕を持って発表の授業ができます。

Q9 このテキストではビジュアル・エイドは使わないのですか？

A **スピーチに慣れないうちのビジュアル・エイドの使用は、おすすめしません。**

なぜなら、それを作成することに時間をかけすぎてスピーチが疎かになったり、プレゼン用ソフトをシナリオ代わりにして読み上げたり、写真を多用して説明不足になったりするなど、ビジュアル・エイドに頼りすぎてしまうからです。このテキストのPart 2 Chapter 1～Chapter 5においては、ビジュアル・エイドがなくてもよい基本的なスピーチの練習をすることが目的となっています。

Chapter 6では動画やスライドを作成しますが、重要なのは作るまでの過程です。グループで協力しながら、観てもらおう対象者を絞り、情報を吟味し、伝わるように工夫することを目的としています。

ビジュアル・エイドは、あくまでも話の内容を視覚的にわかりやすくするための補助と考えてください。



Q10 留学生のクラスでも使えますか？

A はい、使えます！

仲間との協働を通し、どのような日本語を使えばクラスメートに伝わるのかについて考えたり、新しい表現が増えたりするなど、言語自体を学ぶいい機会にもなります。

教師ができる工夫としては、発表前に一度スクリプトを提出させ、誤用をチェックすること、アクセントやイントネーションなど、音声面で気をつけるべき箇所を注意し、練習させることなどが挙げられます。それにより、正確で聞きやすい発表が可能になります。また、相互評価シートの空欄に「日本語の表現の正確さ」「発音の聞きやすさ」など、留学生用の観点を入れるとよいでしょう。

Q11 テキストの順序通りに進めたほうがいいでしょうか。

A そのほうが扱いやすいと思います。

このテキストは、Part1の基礎知識からPart2の実践編へ、Part2のテーマも個人的な内容から社会とつながりのある内容へ、という順序になっています。ですから、例えば、1学期15週の場合、Part1の3つのテーマを1週ずつで行い、Part2の各章を2週ずつで行うとちょうどよい流れになると思います。巻末資料は、授業前のアイスブレイクに使用したり、話す／聞くときの態度について気になったときに使用するとよいでしょう。しかし、これはあくまでも目安ですので、学生の様子を見てアレンジしてください。

Q12 このテキストの付録1（ペチャクチャ質問集）と付録2（スピーチクラス「発表者・聞き手あるある」）は授業で使えますか？

A はい、とても楽しく使えます！

付録1、付録2とも、授業で使えるとても楽しい付録です。付録1の「ペチャクチャ質問集」は授業のはじめにアイスブレイキング・アクティビティとして使うといいでしょう。「留学生に聞いてみたい質問」も用意しました。留学生が混在するクラスや日本語クラスで活用してみてください。さまざまな質問があるので、授業の内容に沿った質問をするのもひとつの例です。また、学生がクラスメートに聞きたい質問を書くスペースがあるので質問集を増やすことができます。クラスメートとおしゃべりしながらリラックスをすることは発表前の大切なウォーミングアップになります。

付録2のスピーチクラス「発表者・聞き手あるある」は、コースのはじめの頃や、学生の発表後などに使うといいでしょう。発表する際の癖や発表の聞き方の癖をおもしろく書いてあるので、楽しく使えます。

Q13 成績評価は何を基準にしたらいいでしょうか？

A 気になる成績評価のしかたをご紹介します。

成績評価のしかたは先生や学校・大学によって違うので、ここでは参考までにご紹介します。

総合成績評価には「絶対評価」と「相対評価」がありますが、発表の評価は学生の苦手意識を少しでもなくすように、絶対評価をおすすめします。少しでも良い成績のほうが学生もうれしく、さらにやる気が出ます。総合成績は、毎回の発表と、発表後に提出する「自己評価シート」、授業への取り組み方などを評価します。

【例】発表(60%) + 自己評価シート(30%) + 出席率や授業中の態度・参加度など(10%) = 総合成績

発表の評価は各章の目的、発表内容の構成、デリバリースキルなどをもとに評価します。例えば以下のような基準です。

【例】

点	評価	発表
100点～90点	A	すべてのポイントが良い発表
89点～80点	B	あと少し〇〇が良くなるという発表
79点～70点	C	いくつかのポイントをもっと良くする必要がある発表
69点～60点	D	練習不足だが、最低限のポイントはできている発表
59点～	F	練習不足で、すべてのポイントができていない発表

特長

● スピーチの指導をしたいけれど……



● スピーチ指導の「困った」を解消したこのヒント集は……



使い方

このヒント集は、『プレゼンテーションの基本 協働学習で学ぶスピーチ ―型にはまるな、異なれ！』を使って授業を進めるための教師用参考資料です。各章、以下の項目が含まれています。

A 各章のねらいと全般的な指導のポイント

B 学習目的・時間管理・形式・準備するもの

- ・ 学習目的：スピーチ準備と発表を通して考えたり、体験したり、身につけてほしいこと
- ・ 時間管理：各章を終えるために必要なコマ数（1回90分の授業を想定）
- ・ 発表形式：1人での個人発表かグループ発表か、および、ビジュアル・エイドや動画などを使用するかどうか
- ・ 準備するもの：授業の前に、あらかじめ用意しておいたほうがよいもの

C 授業の進め方の例と注意点

- ・ 授業の大まかな流れと各作業に要する時間の目安（複数回の授業にわたる章の場合には、1回の授業ごとにてわけて提示）
- ・ 各作業の内容と目的
- ・ 各作業の手順と注意点

「相互評価シート」（※このPDFに収録されています）

The image displays three pages from a 'Mutual Evaluation Sheet' PDF. Page 1 (Chapter 1) contains a table of contents and learning objectives. Page 2 (Chapter 1.1) contains a table of activities and their durations. Page 3 (Chapter 1.1.1) contains a detailed activity description with an orange box highlighting non-text activities. Red circles A, B, and C mark specific sections.

章	活動時間の目安	発表形式	コマ数
1.	10～20分	個人発表	1
2.	10～20分	グループ発表	2
3.	5～10分	個人発表	1
4.	10～20分	個人発表	1
5.	10～20分	個人発表	1
6.	10～20分	個人発表	1
7.	10～20分	個人発表	1
8.	10～20分	個人発表	1
9.	10～20分	個人発表	1
10.	10～20分	個人発表	1

※テキストにない活動は
オレンジ色の枠で表示

各章の終わりには、スピーチの課題ごとにアレンジされた「相互評価シート」が添付されています。「相互評価シート」は学生がお互いに評価し合うためのシートです。発表者×クラス人数分をコピー、配布してお使いください。（例えば、20名のクラスでそのうち10名が発表する場合、 $10 \times 20 = 200$ 枚をコピーし、学生1人に10枚ずつ配布します。）

「アイスブレイキング・アクティビティ」

このヒント集の各章には、テキストには掲載されていない「アイスブレイキング・アクティビティ」が紹介されています。「アイスブレイキング・アクティビティ」を行うことでクラスの雰囲気や和み、その後のグループワークを主体とした準備や本番の発表を円滑に進めることができます。ぜひ、ご活用ください。

※テキストには記載されていないアイスブレイキング・アクティビティと2週目以降の部分は、オレンジ色で表示されています。

「自己評価シート」(※テキストの別冊)

テキストに「自己評価シート」が付録されていることからおわかりのように、このテキストは、スピーチを準備・発表して終わりではなく、自分の発表を振り返り、自分の問題点を自覚し、改善に取り組みながら練習をくり返すことでスピーチの技術を磨くことを前提として書かれています。ただ漫然と練習をくり返すだけでは、問題点を自覚したうえでの練習ほど改善の効果が得られないからです。クラスメートや教師からのコメントやアドバイスも有効ですが、自身のスピーチを自分の目で見たり耳で聞いたりすることによる改善への効果は絶大です。

記憶に頼るのではなく、ビデオカメラやスマートフォンの録画機能などを駆使して、学生が自分の姿を正確に、客観的に振り返ることができる環境を整えてあげることを強く推奨します。撮影は、教師が行うのが難しいようであれば、クラスの中からその日の撮影係を指名したり、ペアやグループをつくって持ち回りでお互いを撮影するルーティーンを設定したりすると、スムーズに行えます。

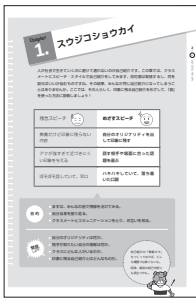
学習者が学びを進めていくためには、安心して参加できる教室風土をつくり、学習者どうしの協力体制を築いていくなど、やはり教師が担う役割は大きいものです。そこでこの「活動のヒント集（教師用参考資料）」では、学習者が少しずつ自己開示をして打ち解け合ったり、協力してお互いを引き出し合うための活動の紹介や、学習者が自分で目標を見いだすための工夫など、われわれの経験からヒントになりそうなものを集めて作成しました。そして、初めてスピーチを指導する先生も授業全体がイメージしやすいように、1コマずつ流れに沿って説明してあります。ですがもちろん、このままなぞっていただく必要はありません。目の前の学習者に合わせ、どんどん使いやすいようにアレンジしてください。

Chapter 1. スウジコショウカイ

< 「わたしの数字」 から語る、記憶に残る自己紹介スピーチ >

「自己紹介で何を話せばよいかわからない」と悩む学生は多く、結果皆が同じ内容になりがちです。今回は教師側から「自分を表す数字を使う」というトピックを与えることで、他人とは違う自分だけの内容を探り、それぞれの個性を表しやすくしようと考えました。学生には、自己開示のバランスをとりながらオリジナリティを出すよう指導してください。今回は「数字」にしましたが、もちろん他の切り口もあるはず。将来の就職活動などに向けて、いろいろと考えてみるといいでしょう。


このスピーチが、それぞれの個性を知り、今後の学生どうしのコミュニケーションのきっかけになるよう期待しています。最後には活動全体をふり返り、各自が自分のスピーチを再考する時間を設けます。教師からも学生用テキストの別冊「自己評価シート」に一言コメントを入れ、今後のプレゼンテーションに意欲が出るよう、指導してあげてください。



学習目的	
★ まずは、みんなの前で視線を浴びてみる。	
★ 自分自身をふり返り、自分のオリジナリティを考える。	
★ クラスメイトとコミュニケーションをとり、お互いを知る。	
★ 印象に残る自己紹介について考える。	
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目……………スピーチの準備	
2回目以降……発表	
発表形式	
1人ずつの発表（各人1～2分）	
準備するもの	
① 教師の数字リスト例（ テキスト p.25）	
② 相互評価シート（発表者の人数×聞き手の人数）	→このPDFのp.18

授業の進め方の例と注意点

● 1 回目 <スピーチの準備>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0.	10～20分	(1) アイスブレイキング・アクティビティ「あなたはどっち派？」 (2) グループ分けアクティビティ	ヒント集限定！ 
1.	10～20分	グループでアクティビティ（アイスブレイキング・アクティビティ）「ウォーミングアップ！」（自己紹介2種）	p.24
2.	5～10分	個人でワーク「数字リストを作ろう！」	p.25
3.	10～20分	グループでワーク「数字リストについての説明と質疑応答をしよう！」	p.26
4.	10～20分	個人でワーク「スピーチ（1～2分）の準備を進めよう！」（宿題可）	p.27
5.	（残りの時間）	発表についての確認	—

0-1. アイスブレイキング・アクティビティ：「あなたはどっち派？」 [15分程度]

目的	<p>少し体を動かし、互いに顔見知りになっていくことで、緊張をほぐす。自分について振り返るきっかけにする。</p> <p>※ 初対面どうしにいきなり協力体制をとらせようとしても難しい。少しでも「知り合った」印象を持たせ、話すきっかけができるよう指導したい。</p>
手順と注意点	<p>出されたトピックについて、自分が A または B のどちらに近いか考え、大きく 2 つに分かれるアクティビティ。</p> <p>手順</p> <p>(1) 学習者を全員立たせ、動けるようにスペースを作る。</p> <p>(2) 教師は 1 つずつトピックを出し、学習者がどちらに動けばよいか指示する。黒板の左側に「A 派」、右側に「B 派」などと板書してもよい。</p> <p>トピック例</p> <p>①寝るときは：A. ベッドがいい派／B. 布団がいい派 ②好きなのは：A. 青空派／B. 夕焼け空派 ③アメを：A. 最後までなめる派／B. 途中でかむ派 ④風邪をひいたら：A. 薬で治す派／B. 自力で治す派 ⑤紙袋や包装紙を：A. すぐに捨てる派／B. 大事にとっておく派 ⑥スポーツは：A. 団体競技派／B. 個人競技派</p>

<p>手順と注意点</p>	<p>⑦ 仕事で重要なのは：A. 結果派／ B. 過程派</p> <p>⑧ 目の前にお年寄りと妊婦さんが立っています。席を譲るとしたら：A. お年寄り／ B. 妊婦さん</p> <p>⑨ 好きなのは：A. 必要な物以外は置かない、シンプルな部屋／ B. 自分の好きな物をたくさん集めて飾った部屋</p> <p>⑩ 落ち込んだときや暗い気持ちのときは：A. 一人、部屋で静かに過ごす／ B. 友達と一緒ににぎやかに過ごす</p> <p>⑪ 新入社員を選ぶなら：A. 自分の得意なことや能力を、積極的にアピールする人／ B. 自分からはあまり話さない人</p> <p>⑫ レストランで注文したものに髪の毛が入っていたら：A. 髪の毛を自分で取って、そのまま食べる／ B. 店員さんに言って、新しい物と取り換えてもらう</p> <p>⑬ 初めてのデートでお好み焼きを食べに行った。食事の後、彼／彼女の歯に青のりがついていることに気がついた。 A. 気づかないふりをして、そのまま過ごす／ B. すぐに教えてあげる</p> <p>※ 上の例の他にも、「ペチャクチャ質問集」(⇒テキストの付録 1.)などを参考にするとよい。</p> <p>※ どうしても A か B に決められない場合は、真ん中に立ってもよい。</p> <p>※ 「なぜ A / B を選んだか」の理由を聞いたり、学生からトピックを出させたりしてもよい。</p> <p>※ 学生から質問が出た場合や何か言いたげな場合は、その都度取り上げる。例えば⑫や⑬などで B を選んだ学生には、どのような言い方をするかなど聞くと、さまざまなコミュニケーションのしかたがあることに気づける。</p>
---------------	--

0-2. グループ分けアクティビティ [5分程度]

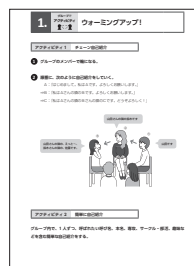
<p>目的</p>	<p>少し楽しみながらグループ分けをする。今回の授業を進めていく協働学習のメンバーを決定する。</p>
<p>手順と注意点</p>	<p>手順</p> <p>案 1：「数で集まる」 学生を自由に歩かせる。その途中で教師が適当な人数を指示。学生は、その人数で集まったらしゃがむ／または手を挙げる。これを数回くり返し、最後に「3人」あるいは「4人」と指示を出し、グループを作らせる。</p> <p>ポイント・注意点 ※ 学生が歩き回れる十分な空間を作っておき、ケガがないよう注意する。</p> <p>案 2：「くじ引き」 あらかじめ 3～4 人程度のグループになれるようくじを作っておき、学生に引かせる。</p>

1. グループでアクティビティ（アイスブレイキング・アクティビティ）：ウォーミングアップ！ [10～20分]

ワークの目的

緊張をほぐしながらグループのメンバーを知る。協働学習の基盤をつくる。

テキスト p.24



自己紹介ワーク 2 種類

手順

- (1) グループ分けアクティビティで分かれたグループで一緒に座らせる。この回はこのメンバーで進めていくため、しっかり協力し合うように確認する。
- (2) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (3) グループのメンバー内で輪になり、「アクティビティ 1 チェーン自己紹介」をさせる。
最初の人「私は〇〇です」と自分の名前を言う。次的人是、最初の名前を言った後に続けて自分の名前を言う。「私は、〇〇さんの隣の～です。」その次的人是、いちばん最初の名前からすべて言わなければいけない。「私は、〇〇さんの隣の、～さんの隣の、△△です。」
- (4) 1人ずつ、呼ばれたい呼び名、本名、専攻、サークル・部活、趣味などを話す「アクティビティ 2 簡単な自己紹介」をさせる。

ポイント・注意点

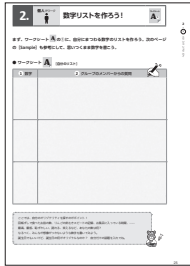
- ※ 「チェーン自己紹介」は3、4人だとすぐ終わってしまうので、隣のグループと合わせてやってもよい。大人数で行うと難しいうえ時間がかかるので、学習者の様子を見ながら人数は適宜調整する。早く終わったグループは逆周りで行うのもよい。
- ※ (4) の自己紹介で、話す内容を指定せず自己紹介をさせてみる方法もある。その後、どんな自己紹介をしたか、みんなが似通った話をしていなかったか確認しておく。そして、スピーチがすべて終わった後に、このときの自己紹介と比べてオリジナリティや印象がどのように違ったか比較させることもできる。

2. 個人でワーク：数字リストを作ろう！ [5～10分]

ワークの目的

スピーチの話題探しの準備と雰囲気づくり。

テキスト p.25



各自の数字リスト作成

手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) 教師があらかじめ自分のリストを作成しておき、それを見せながら、何の数字かを説明する。サンプルを参考に、悪いほうの記録やくだらないことでもよいことを伝える。
- (3) 各自、【ワークシート A】の①に自分の数字を書き込み、リストを作成させる。
※ 何か数字かは、3で口頭で説明するので、ここでは数字のみでよい。

ポイント・注意点

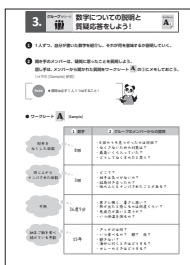
- ※ スピーチは堅苦しいもの、というイメージをつけてしまうと、学生の頭が固くなってしまふので、教師も自己開示をし、できるだけ自由に話せる雰囲気づくりに努める。
- ※ 今回は「数字」という切り口にしたが、これを機に他にもオリジナリティを出せるものを探してみるとよい。

3. グループでワーク：数字についての説明と質疑応答をしよう！ [10～20分程度]

ワークの目的

自分の頭の中にあるものを言葉にして伝える。相手の話をよく聞く。自分らしい話題を探ったり、聞き手の反応を知る。

テキスト p.26



数字についての説明と質疑応答

手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) テキストの手順(①～②)に沿ってワークを進めさせる。
 - ① 1人1つずつ自分が書いた数字を紹介し、それが何を意味するか説明していく。
 - ② 聞き手のメンバーは、疑問に思ったことを質問する。話し手は、メンバーから聞かれた質問を【ワークシート A】の②にメモしておく。

ポイント・注意点

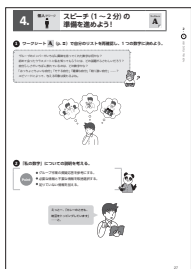
- ※ 1人最低1つは質問をするように促す。
- ※ 1人1つずつ説明していく方法と、1人ずつすべての数字について説明していく方法がある。1つの数字について少し長めに説明するなら、前者のほうが飽きがち、時間のバランスもよい。後者の場合、話し手は一言で説明を終わらせ、聞き手は特に気になったことについて質問していく。そうすると、どの質問が聞き手の興味をそそるのがわかりやすい。
- ※ 1人であまり長く話している場合は、次のメンバーに回すよう促す。

4. 個人でワーク：スピーチ（1～2分）の準備を進めよう！ [10～20分程度]

ワークの目的

準備をしっかりすることで内容の吟味を行う。スピーチへの心構えを作る。聞き手が聞きたいと感じる自分の情報と、自分が知ってほしいと思う自分の情報とを整理する。

テキスト pp.27-29



スピーチ準備作業





手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) テキストの手順 (①～④) に沿ってワークを進めさせる。
 - ① 【ワークシート A】 で自分のリストを再確認し、1つの数字に決める。
 - ② 「私の数字」 についての説明を考える。
 - ③ **テキスト** p.29 【アウトラインシート】 を参考にアウトラインを書く。

ポイント・注意点

- ※ 選ぶのはあくまでも自分だが、グループワークの質疑応答でメンバーの反応が良かったものを参考にするとよい。
- ※ 聞き手と場所にふさわしい内容か、また自分のどんな面を知ってほしいのか、熟考するように促したい。例えば、「財布をよくなくす」数字を紹介すれば、「おっちょこちょい」「忘れっぽい」イメージになる。
- ※ 必要な情報と不要な情報を取捨選択する。
- ※ 最初のスピーチなので、1～2分程度で終わるものでよい。
- ※ 話す内容を一度全部書きたがる学習者もいるが、発表のときにそれを読んではいけないことを確認。長い文章ではなく、箇条書きやキーワードなど、簡潔な言葉で記入するよう指導する。そうすることで発表時の丸読みを避け、目線を聞き手に向けることができる。(**テキスト** Part 1 Chapter 2 参照)
- ※ 次の回までに練習してくることを指示。特に今回のスピーチでは、
 - ・「私の数字は～です」と、数字をハッキリ言う
 - ・なるべく落ち着いて話す
 - ・笑顔で話すことを目標にするよう意識させる。

● 2 回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10分	発表前の確認事項	ヒント集限定！ 
(2.)	(10～20分)	(個人作業「リハーサル」)	ヒント集限定！ 
3.	残りの時間	個人発表と相互評価	ヒント集限定！ 
4.	5分	宿題の確認	ヒント集限定！ 

1. 発表前の確認事項 [10分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[→ PDF p.18]
(発表者の人数×聞き手の人数)

タイマー

残り時間を伝えるカード

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ビジュアル・エイドを使ってもよいが、目線に注意する。
- アウトラインを確認してもよいが、原稿は読まないこと。
- 制限時間を確認する。制限時間より早く終わってしまった場合、制限時間を超えてしまった場合のルールを事前に決めておく。

(2) 相互評価についての指導。

- 今回の学習目的を確認する。
- 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- 聞き手は発表中、話し手のほうに体を向けてしっかり聴くように指導する。スピーチが終わってから相互評価シートを記入させる。
- 大切なフィードバックなので、発表をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良いスピーチになるか、具体的に書くよう指導する。
- 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- 内容に関する素朴な質問も記入してよい。
- 相互評価シートは発表後に回収し、授業の最後に各発表者に渡す。回収は、スピーチを終えた直後の学生が、自分の1つ前に発表した学生の相互評価シートを集めるようにすると時間が有効に使える。(発表者はスピーチ後、自分の評価が記入されている間はすることがないため。)一番目に発表した学生には、最後の学生の相互評価シートを集めることも伝える。

(3) 発表順を決める。

- 発表順に、発表者名をホワイトボードなどに記入させるとよい。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・発表が2週にわたる場合、発表しない学生からタイマー係や撮影係を決める。

ポイント・注意点

- ※ 発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ タイマー係には、「あと1分」「あと30秒」などと大きめに書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
- ※ 相互評価シートを回収後すぐに本人に渡すと、読むことに集中してしまい、次の発表者のスピーチを聞かないことがある。それを避けるため、回収後はいったん教師が預かり、全員のスピーチが終わってから手渡すとよい。その場合、回収後は教師に渡すように指示すること。
- ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷の防止策として評価者の名前を記入させてもよい。

(2. リハーサル [10～20分])

準備編で時間がなかった場合、発表の直前にリハーサルを入れるか、省いてもよい。

例1

グループの中で1人ずつ練習を行う。聞き手は時間を計ったり、話し方をチェックしたりする。

例2

全体を2列に分ける。右側を話し手、左側を聞き手とし、時間ごとに移動しながら聞き手を変えて話す練習を行う。数回行ったら、役割を交代する。

例2

聞き手



話し手



3分おきに移動

3. 個人発表と相互評価

目的

発表と評価の実施。

手順

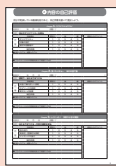
- (1) 1人ずつ前に出て、発表を行わせる。
- (2) 個人の発表終了ごとに、聞き手に相互評価シートを記入させる。その間に、教師は発表者に口頭でフィードバックを行う。
- (3) 話し手にはクラスメートから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

ポイント・注意点

- ※ 学生の人数が多い場合、発表は2週に分ける。
- ※ 各発表後に（発表者以外の学生が相互評価シートを記入している時間内）教師は発表者に対して個人的にコメントする（他のクラスメートに聞こえないように隅で行うとよい）。もしくは、教師から見た良い点や改善点をクラスで共有する形でもよい。
- ※ 発表直後の学生は、緊張からの解放により教師のフィードバックが耳に入らない場合がある。安静してから行うか、短いコメントに留めておくとうい。
- ※ まず、良かった点、頑張った点などのコメントを先にいくつか伝える。注意点を口頭で伝える場合は、最後に1つだけ伝える程度にするとよい。
- ※ 全員の発表が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

4. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

- (1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。
- (2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。
 - ・ 自分の発表体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
 - ・ 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。

相互評価シート：Chapter 1. スウジコショウカイ

発表者の名前： _____ 発表日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 限

【この章の目標】 自分のオリジナリティを探して印象に残す

評価項目		要努力	良	優		
①	オリジナリティがあり、印象に残る自己紹介だった	1	2	3	4	5
②	適切な話題選びができていた	1	2	3	4	5
③	話し方がハッキリしていて、聞きやすかった	1	2	3	4	5
④		1	2	3	4	5

●良かったところ

●より良くするためのアドバイスや質問

●印象度数

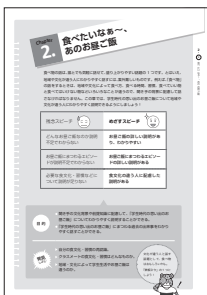
ほとんど印象に残らなかった	あまり印象に残らなかった	ふつう	印象に残った	とても印象に残った
---------------	--------------	-----	--------	-----------

Chapter 2. 食べたいなあ～、あのお昼ご飯

< 地域や文化が違う人にわかりやすく説明するスピーチ >

多様な文化が共存する社会になり、さまざまな文化背景を持つ人と話す機会が増えてい
ます。大学でも留学生と日本人の学生と一緒に学べる授業が増えましたが、そのようなクラス
で発表するときは、さまざまなことを考慮しなくてはなりません。食べ物の話は、誰とでも
気軽に話せて、盛り上がりやすい話題の1つです。とはいえ、地域や文化が違う人にわかり
やすく話すのは、意外と難しいものです。この章の目標は、思い出のお昼ご飯について地域や
文化が違う人にわかりやすく説明することです。ただ、クラスメートと同じような内容にな
らないように指導してください。


この章では、2つのスキルに重点をおきます。1つめは自分しか知らない、過去の経験を
話すときに大切な「説明力」です。自分の頭の中に見えている過去の状況を、聞き手に理解
してもらえるように説明することです。もう1つは、多様な文化背景を持つ聞き手に説明す
る際に必要な「異文化コミュニケーション能力」を高めていくことです。自分では普通だと
思っている食文化や習慣を異文化という観点から再認識し、聞き手にとってどんな説明が必
要かを考え、情報の差を埋める練習をします。また、説明をするときの言い回しや、聞き手
に失礼のないジェスチャーなどを使って伝えることの大切さも学びます。今回は「お昼ご飯」
にしましたが、自分の文化について発表してもらおうのもよいと思います。



学習目的	
★ 自分の食文化・習慣を再認識する。	
★ クラスメートの食文化について学ぶ。	
★ 自分しか知らない情報を聞き手に伝わるように詳しく描写する。	
★ 聞き手の文化背景や前提知識に配慮して、説明することができる。	
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目……………スピーチの準備	
2回目以降……発表	
発表形式	
1人ずつの発表（各人3分）	
準備するもの	
① テキスト 巻末「発表者・聞き手あるある」の【留学生が気になる日本人の癖】	
② 相互評価シート（発表者の人数×聞き手の人数）	→このPDFのp.27

授業の進め方の例と注意点

● 1 回目 <スピーチの準備>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0.	10～15分	アイスブレイキング・アクティビティ：「みんな一緒だね♪」	ヒント集限定！ 
1.	10分	ペアでアクティビティ（アイスブレイキング・アクティビティ） 「食べ物について話してみよう！」	p.32
2.	15～20分	個人でワーク「思い出のお昼ご飯について書いてみよう！」	p.33
3.	15～20分	グループでワーク「思い出のお昼ご飯について質問し合おう！」 (話題の絞り込み)	p.36
4.	10～20分	個人でワーク「スピーチ（3分）の準備を進めよう！」（宿題可）	p.37
5.	(残り時間)	発表についての確認	—

0. アイスブレイキング・アクティビティ：「みんな一緒だね♪」 [10～15分程度]

目的	グループで楽しみながら緊張をほぐし、食べ物の特ピックに慣れる。
手順と注意点	<p>用意するもの A4の白紙（人数分） ※なければ、ノートなどに書かせる</p> <p>手順 (1) 導入として、教師がクラス全体に、次のページの「質問の例」のような質問をする。</p> <p>(2) アクティビティのルールを説明する。 [ルール] 質問者の質問に、クラス全員が同じ答えを出すことをめざすアクティビティ。</p> <p>① 質問者を1人決める。 ② 質問者は1つ質問をする。クラス全員が一致すると思う答えを全員がそれぞれの紙に書く。（なるべく「食べ物」の質問をするように説明する。） ③ 「せーの！」で全員が一斉に答えを言い、答えの紙を見せる。 ④ 答えが一致しなかった場合は、なぜその答えを選んだのか、理由を聞く。 (例) 質問者：お味噌汁の具といえば何？（答えを書かせる時間）…せーの！ 学生A：お豆腐！ 学生B：ネギ！（全員が一斉に答える） 質問者：なぜネギだと思ったのですか？</p> <p>⑤ 質問者の役を交代する。</p>

手順と注意点	<p>(3) アクティビティを行う。(※授業時間に合わせて、質問者の数は調整する)</p> <p>(4) クラス全体でアクティビティをふり返り、感想などを話す。</p>
	<p>ポイント・注意点</p> <ul style="list-style-type: none">※ チームビルディングのアクティビティになる。※ 留学生がわかるような内容の質問をする。 <p>質問の例</p> <ul style="list-style-type: none">• おにぎりの具といえば何？• 寿司のネタといえば何？• サンドイッチの具といえば何？• ラーメンといえば何味？• アイスクリームのフレーバーといえば何？• 目玉焼きに何をかける？• 食事中に何を飲む？• コンビニでよく売れているお菓子は何？• おでんにつけるのは何？• おにぎりの形は何？• みんなの冷蔵庫に必ず入っている食べ物は何？• お弁当のおかず（ごはんは含まない）といえば何？• 辛い食べ物といえば何？• 夏に飲む物といえば何？• 冬の食べ物といえば何？• 子どもが好きなフルーツといえば何？

1. ペアでアクティビティ (アイスプレイング・アクティビティ)：食べ物について話してみよう！ [10分程度]

ワークの目的

食べ物について質問し、食文化や習慣の違いに気づく。

手順

(1) ペアをつかって、隣どうしに座る。

※ クラス全員と話すようにするため、まだペアになったことがない人どうしを組ませるようにする。

※ 出身国・出身地域などを分けるようにする。

(2) 食べ物についての質問をペアでする。

※ 教師はテキストに記載してある質問以外の例を出す。

質問の例

• あなたの文化／家族で、よく食べる野菜は何ですか？

テキスト p.32



- ・（留学生用）日本で売っていない食材・調味料は何ですか？
- ・毎日でも食べたい物がありますか？
- ・ダイエットに最適な食べ物は何だと思いますか？
- ・子どもの頃の大好きだったお菓子は何かですか？
- ・あなたの文化／家族では、食事のときにしてはいけないマナーがありますか？
どんなことですか？
- ・食事は1日に何回しますか？ 何時に食べますか？ どこで食べますか？
誰と食べますか？
- ・作れる料理は何ですか？
- ・どんな料理を作れるようになりたいですか？

ポイント・注意点

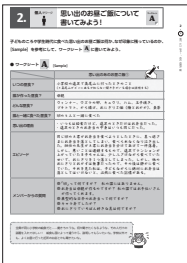
※ もし、質問が出ないようであれば、「ペチャクチャ質問集」(⇒**テキスト**)の付録 1.)に記載されている「食べ物編」の質問を参考にする。

2. 個人でワーク：思い出のお昼ご飯について書いてみよう！ [15～20分]

ワークの目的

スピーチの話題探しの準備。

テキスト pp.33-35



手順

思い出に残っているお昼ご飯は何か、なぜ印象に残っているのか例を参考にして、**【ワークシートA】**の**【思い出のあのお昼ご飯①/②】**を書くように指示する。

ポイント・注意点

- ※ 話し手には、聞き手と異なる食文化や習慣なども説明するように指示する。
- ※ アイデアが出てこない学生には、いくつか例を示す。
- ※ 内容が同じにならないように、なるべく異なるお昼ご飯について発表するように指示する。

3. グループでワーク：思い出のお昼ご飯について質問し合おう！（話題の絞り込み） [15～20分]

ワークの目的

グループで話すことを通し、聞き手の反応をもとに、どの話題にするか決める。

手順

テキストの手順**（①～④）**に沿ってワークを進める。

- ① メンバー全員の**【ワークシートA】**をチェックするように指示する。メンバーは、疑問に思ったことをワークシートの質問欄に書き、次の人に渡す。
- ② ワークシートが戻ってきたら、メンバーが書いてくれた質問を確認する。
- ③ 自分がいちばん話しやすく、みんなが興味を持ってくれそうな話題を1つ選ばせる。質問欄を参考にしながら、1人3分程度、その話題について説明する。メンバーはさらに、気になったことを時間があるかぎり質問する。

テキスト p.36



④ 話し終わったら、メンバーから聞かれた質問をメモする。

ポイント・注意点

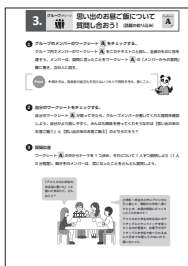
- ※ 時間があるかぎり、聞き手はわからないところを次々に質問をし、話を引き出すように指示する。
- ※ 教師がタイムキーパーをする。
- ※ 聞き手にわかりやすい説明が入っているか、確認する。
(例) 日本国内でも地域によってお雑煮の具や味が違うことを説明する。
外国との違いだけが異文化ではないことを補足説明する。

4. 個人でワーク：スピーチ（3分）の準備を進めよう！ [10～20分]

ワークの目的

聞き手が必要としている情報や、聞きたいと感じる情報と、自分が知ってほしいと思う情報を整理しながら準備を行う。

テキスト pp.37-39



手順

テキストの手順（①～④）に沿ってワークを進める。

- ① 【ワークシート A】で自分のリストを再確認し、どのお昼ご飯の話にするか決める。グループワークの質疑応答で、メンバーの反応がよかったものを参考にするとよい。
- ② **テキスト** p.39【アウトラインシート】を参考にアウトラインを書く。
- ③ ジェスチャーや情報量を考えながら、再度スピーチを構成させる。
 - ・ 聞き手に必要な説明が入っているか、熟考するように促したい。例えば、「日本の給食」について留学生にわかるように説明を加える、など。
 - ・ 必要な情報と不要な情報を取捨選択する。
- ④ 次回までに宿題として、声に出して、自分が納得するまで練習するように指示する。

ポイント・注意点

- ※ もし、どうしてもテーマを変更したい場合は、変更可能だが、【ワークシート A】の作業をやってからスピーチをするように指導する。
- ※ 話す内容を一度全部書きたがる学習者もいるが、発表のときにそれを読んではいけないことを指示する。
- ※ 次の回までに練習してくることを指示。特に今回のスピーチでは
 - ① 海外、また日本国内でも、さまざまな食文化・宗教・習慣・文化の違いがあることを学習者に気づかせる。(例：関西と関東の食文化の違いなど)
 - ② 聴衆分析をして、発表の中で違いをどのように説明したらよいかを意識させる。
- ※ 聞き手にとって失礼のないジェスチャー、わかりやすい言葉遣いや、説明をすることが大切と伝える。





オプション

- * オプションとして発表するお昼ご飯の絵や写真を用意してくる。(宿題にしてもよい)

● 宿題

	所要時間の目安	宿題	テキスト
1.	45分	アウトラインを完成させる。	p.39
2.	15分	リハーサルを行う。	—

● 2回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10～15分	発表前の確認事項	ヒント集限定! 
(2.)		(個人作業「リハーサル」)	ヒント集限定! 
3.	70分	個人発表と相互評価	ヒント集限定! 
4.	5分	宿題の確認	ヒント集限定! 

1. 発表前の確認事項 [10～15分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[→ PDF p.27]
(発表者の人数×聞き手の人数)

タイマー

残り時間を伝えるカード

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- 絵や写真を見せながら発表する場合は、目線に注意する。
- アウトラインを確認してもよいが、原稿は読まないこと。
- 制限時間を確認する。制限時間より早く終わってしまった場合、制限時間を越えてしまった場合のルールを事前に決めておく。

(2) 相互評価についての指導。

- 今回の学習目的を確認する。
- 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- 聞き手は発表中、話し手のほうに体を向けてしっかり聴くように指導する。スピーチが終わってから相互評価シートを記入させる。
- 大切なフィードバックなので、発表をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良いスピーチになるか、具体的に書くよう指導する。
- 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- 内容に関する素朴な質問も記入してよい。
- 相互評価シートは発表後に回収し、授業の最後に各発表者に渡す。回収は、ス

スピーチを終えた直後の学生が、自分の1つ前に発表した学生の相互評価シートを集めるようにすると時間が有効に使える。(発表者はスピーチ後、自分の評価が記入されている間はすることがないため。)一番目に発表した学生には、最後の学生の相互評価シートを集めることも伝える。

(3) 発表順を決める。

- 発表順に、発表者名をホワイトボードなどに記入させるとよい。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- 発表が2週にわたる場合、発表しない学生からタイマー係や撮影係を決める。

ポイント・注意点

- ※ 発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ タイマー係には、「あと1分」「あと30秒」などと大き目に書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
- ※ 相互評価シートを回収後すぐに本人に渡すと、読むことに集中してしまい、次の発表者のスピーチを聞かないことがある。それを避けるため、回収後はいったん教師が預かり、全員のスピーチが終わってから手渡すとよい。その場合、回収後は教師に渡すように指示すること。
- ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷の防止策として評価者の名前を記入させてもよい。

(2. リハーサル [10～20分])

時間があれば、リハーサルを行う。Chapter1 (PDFのp.16) 参照。

3. 個人発表と相互評価 [70分]

目的

発表と評価の実施。

手順

- (1) 1人ずつ前に出て、発表を行わせる。
- (2) 個人の発表終了ごとに、聞き手に相互評価シートを記入させる。その間に、教師は発表者に口頭でフィードバックを行う。
- (3) 話し手にはクラスメートから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

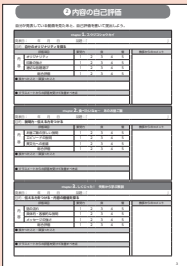
ポイント・注意点

- ※ 学生の人数が多い場合、発表は2週に分ける。

- ※ 各発表後に（発表者以外の学生が相互評価シートを記入している時間内）教師は発表者に対して個人的にコメントする（他のクラスメートに聞こえないように隅で行うとよい）。もしくは、教師から見た良い点や改善点をクラスで共有する形でもよい。
- ※ 発表直後の学生は、緊張からの解放により教師のフィードバックが耳に入らない場合がある。安静してから行うか、短いコメントに留めておくとよい。
- ※ まず、良かった点、頑張った点などのコメントを先にいくつか伝える。注意点を口頭で伝える場合は、最後に1つだけ伝える程度にするとよい。
- ※ 全員の発表が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

4. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

- (1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。
- (2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。
 - ・ 自分の発表体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
 - ・ 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。

相互評価シート：Chapter 2. 食べたいなあ～、あのお昼ご飯

発表者の名前： _____ 発表日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 限

【この章の目標】 文化の違う人にも、わかりやすくお昼ご飯の説明ができる

評価項目		要努力	良	優		
①	お昼ご飯の詳しい説明	1	2	3	4	5
②	お昼ご飯にまつわるエピソードの説明	1	2	3	4	5
③	文化の違う人に配慮する	1	2	3	4	5
④		1	2	3	4	5

●良かったところ

●より良くするためのアドバイスや質問

●説明度数

わかりやすく説明して いなかった	あまりわかりやすく説明して いなかった	ふつう	わかりやすく説明していた	とてもわかりやすく説明していた
---------------------	------------------------	-----	--------------	-----------------

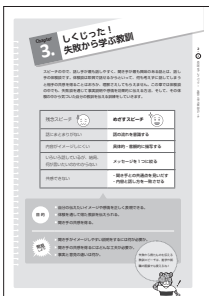
Chapter 3. しくじった！ 失敗から学ぶ教訓

<自分が体験した失敗を語り、その失敗から得たことや教訓を伝えるスピーチ>

学生の多くはあらゆる場面で体験談や思い出を話す機会があります。自分が体験したことなので、話し手は話しやすいのですが、聞き手としては「説明がわかりにくい」「思いや感情が伝わらない」「結局、それがどうした？」という3大ストレスに見舞われます。この章では、身近な思い出や体験談を通して、自分の伝えたいイメージや感情を聞き手になるべく正確に表現をし、共感を得ることを目標としました。

体験談の中でも失敗にこだわったのは、学生が話しやすいことと、聞き手への魅力です。聞き手にとって自慢話よりは失敗談のほうが親近感が湧きますし、ただの不幸自慢よりはそこからの起死回生に人は惹きつけられるためです。また、失敗から学ぶ教訓スピーチは、就職活動やアルバイトの面接にも有効です。面接官は学生時代に打ち込んだこと、失敗したときどういう対応をしたのか、そこから何を学んだのかを質問することで、学生の問題解決能力や柔軟性を探ろうとします。よって、教訓ネタを多く持っていれば、面接でアピールできる材料を増やすことができるのです。


学生の多くは失敗を恐れ、一步前へ出て挑戦することを避ける傾向が強いと思います。パラドクスになりますが、失敗から学びがあるかぎり、それは失敗ではありません。むしろ若いうちは失敗を多くしておくべきだと、教師の皆さんなら知っているはずですが、ですから、このスピーチのクラスでも、たくさん失敗してもいいこと、恥ずかしいことではないことを強調しながら、学生の話す意欲を刺激してほしいと思います。



学習目的	
★ 話の流れを意識する	
★ メッセージを1つに絞る	
★ 内容と話し方を一致させる	
★ 自分の伝えたいイメージや感情を聞き手に正しく表現できる	
★ 体験を通して得た教訓を伝えられる	
★ 相手の共感を得る	
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目……………スピーチの準備	
2回目以降……発表	
発表形式	
1人ずつの発表（各人3～5分）	
準備するもの	
① 失敗を連想させる写真2枚	
② 相互評価シート（発表者の人数×聞き手の人数）	→このPDFのp.40

授業の進め方の例と注意点

● 1回目 <スピーチの準備>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0.	10～20分	アイスブレイキング・アクティビティ「ジェスチャーゲーム」 (翌週にまわしてもよい)	ヒント集限定! 
1.	15分	ペアでアクティビティ (アイスブレイキング・アクティビティ) 「写真の説明エクササイズ」	p.42
2.	10～15分	ペアでワーク「失敗した出来事を思い出そう! (話題探し)」 (個人でワークも可)	p.43
3.	20～25分	グループでワーク「失敗について話し合い、質問し合おう! (話題の絞り込み)」	p.44
4.	10～15分	個人でワーク「スピーチ (3～5分) の準備を進めよう!」(宿題可)	p.46
5.	5分～残り時間	個人でワーク「ドラマチックな話し方でリハーサル!」 (ペアでワーク/グループでワークも可) (次週に回すことも可)	p.48
6.	残り時間	グループでワーク「リハーサル!」	p.49

0. アイスブレイキング・アクティビティ：「ジェスチャーゲーム」 [10～20分程度]

目的	講義内または翌週の発表直前に、学生の緊張をほぐし、ジェスチャーをつけやすくする目的で、ジェスチャーゲームを盛り込むことを勧める。ここでは、伝言ゲームの要領で、あるワードを顔の表情とジェスチャーだけで次々に伝えていくゲームを紹介する。
手順と注意点	<p>手順</p> <p>(1) 教師が、感情を表に出しやすく、かつ、ジェスチャーのつけやすいワードをいくつか用意する。 [例] 高所恐怖症、合格発表、謝罪会見など</p> <p>(2) 4人1組のグループを作り、教卓に対して縦一列に並ばせる。</p> <p>(3) 先頭(1番目)の学生以外は、後ろを向いて待機。教師は先頭にワードを見せる。</p> <p>(4) 教師は2番目の学生のみを前に向かせる。教師の合図で先頭の学生は、2番目の学生にジェスチャーと顔の表情のみでワードを表現する。ジェスチャー時間は20秒。</p>

(5) 次に3番目の学生に前を向くよう指示する。2番目の学生は、先頭の学生のジェスチャーから導き出されたワードを、3番目の学生にジェスチャーと顔の表情を使って表現する。ジェスチャー時間は20秒。

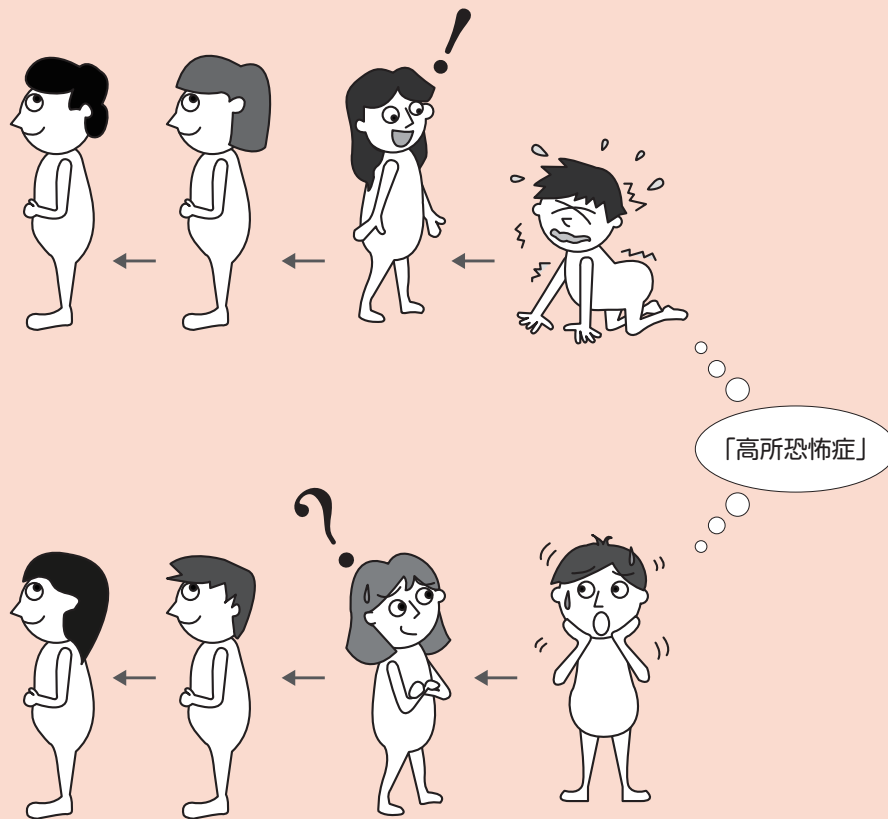
(6) 同様に、最後の学生までジェスチャーと表情だけでワードを伝えていく。最後の学生は、直前の学生のジェスチャーや顔の表情から、ワードが何だったか、1人ずつ答えを口頭で発表する。全員の答えを聞き終わったところで、教師が正解のワードを言う。

(7) 時間があれば、学生の並び順とワードを変え、複数ラウンドくり返す。1ラウンド約5分。

ポイント・注意点

- ※ 全員、言葉の使用は一切禁止にする。
- ※ 今回のスピーチでは、内容に合った話し方をすることが聞き手の共感を得る上で大事になってくるので、ワードに対する顔の表情やジェスチャーを大きく、はっきりつけることを強調する。

手順と注意点

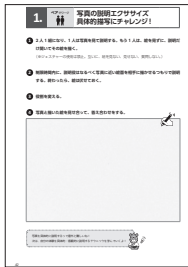


1. ペアでアクティビティ (アイスプレイング・アクティビティ): 写真の説明エクササイズ [15分]

ワークの目的

体験談に欠かせない描写の練習。自分の見ている風景を言葉にすると、相手にどのように伝わったかを認識させる。

テキスト p.42

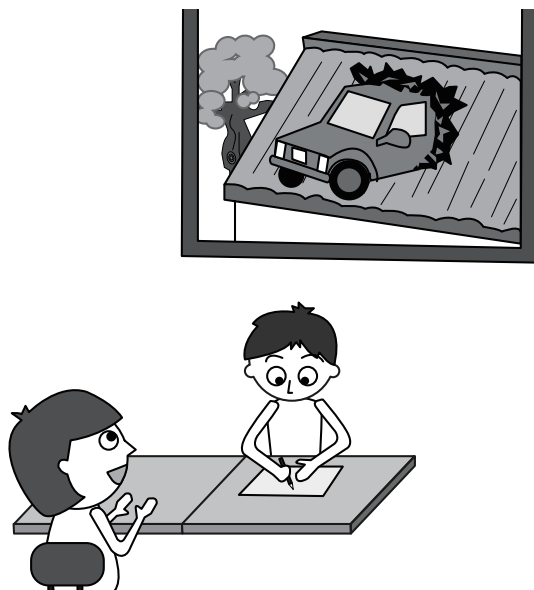


用意するもの

失敗を連想させる写真2枚

手順

- (1) クラス全体を、くじやトランプ、番号の割り振りなどで1グループ4人になるようにグループ分けをする。このグループでこの日の授業は協働作業をしていく。席は4人1グループ対面式にして座らせるといい。
- (2) エクササイズを進め方と注意点・目的などについて確認する。
- (3) 写真エクササイズでは、グループ内でペアをつくり、説明役と絵を描く役を決める。このとき、絵を描く役は、写真が見えないように、説明する役は、相手の絵を見ないように座る位置を調整する(図参照)。
- (4) 教師はスクリーンに写真を映す(または、説明役だけに写真のプリントを配布する)などして、タイマーで時間を計る。
- (5) テキストの手順(①~④)に沿ってペアでワークを進めさせる。
 - ① 説明役は相手になるべく写真に近い絵を描けるように説明する。絵を描く役はそれを聞いて描いていく。
 - ② 一方通行のスピーチと同じ条件にするため、説明役は相手の絵を見て説明してはいけない。絵を描く役は質問をしてはいけない。お互いにジェスチャーの使用は禁止。
 - ③ 制限時間(2分)を過ぎたら、絵は伏せておく。
 - ④ 役割を交代し、写真を変えて、①~③の作業をくり返す。
- (6) 最後に写真と描いた絵を一齊に見せて答え合わせをする。



ポイント・注意点

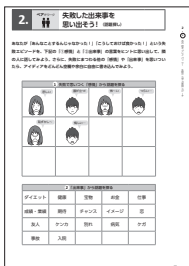
- ※ グループをつくるときは、普段一緒に座っている、または仲がいい学生どうしにならないように配置するのが望ましい。偏りのあるグループがあったら、教師が学生に移動を求める。
- ※ 写真は失敗を連想させるような写真（転倒、対物事故など）を選ぶ。
- ※ 写真を見せるときは、後ろの学生にも見えるように PC ソフトで大きく見せるのが望ましい。説明をスタートさせる前にまず写真で何が起きているのか把握するために 10 秒ほど、準備時間を与えるとよい。
- ※ 説明役が写真を見やすいように、描く役は写真の中が見えないよう、かつ、絵を見せないよう、席の配置に注意する。
- ※ 学生が 3 人になってしまう場合、1 人が説明、2 人が絵を描く役にする。役割交代の際は、1 人が 2 回絵を描く役にしてもよい。
- ※ 答え合わせで、写真と絵が近いペアには、どんな説明の工夫をしたか、どんな説明があったからうまく描けたか、クラスでシェアさせてもいい。

2. ペアでワーク：失敗した出来事を思い出そう！（話題探し） [10～15分]
(個人でワークも可)

ワークの目的

制限時間内で話せそうな話題を探る。

テキスト p.43



手順

- (1) このスピーチでは、自分が体験した失敗を語り、最終的にその失敗から得たことやみんなへのアドバイスとしての教訓を盛り込むことを伝える。
 - ※ 失敗談はいくつあってもよいが、それらの失敗から共通する教訓は 1 つに絞るように指示する。
- (2) ワークの進め方と注意点・目的などについて確認する。
- (3) テキストの手順に沿ってワークを進めさせる。
 - ① 写真の説明エクササイズと同じ学生とペアで話し合いながら話題を探る。個人で行ってもよい。
 - ② すぐに思いつかない場合、失敗から連想する「感情」や、事故や失恋などの「出来事」から探る。思いついた失敗談は、空欄や余白に自由に書き込む。

ポイント・注意点

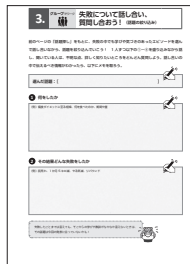
- ※ 経験豊富な教師による、数々の失敗談や、著名人の失敗談を具体例として挙げ、学生の話題探しのヒントを与えるとよい。
- ※ 自称「私、失敗しないので」という学生がいたら、「失敗していないことが失敗だよ」とやんわり伝え、危機管理能力を鍛えるためにも、受験や部活、子どものころや何かを初めてしたときの失敗などを思い出させる。

3. グループでワーク：失敗について話し合い、質問し合おう！（話題の絞り込み） [20～25分]

ワークの目的

話し合いながら話題を絞り込む。

テキスト pp.44-45



手順

(1) ワークの進め方と注意点・目的などについて確認する。全員が平等に話す機会があるように、1人5分を目安に役割を交代させる。教師はタイムキーパーになる。

(2) テキストの質問(①～④)に沿ってグループでワークを進めさせる。

- ① 選んだ話題について、話し手はどんな失敗をしたか、その結果どんなことが起きたか、そこから何を学び、聞き手への応用アドバイスは何か、順を追って話してみる。
- ② 聞き手は話を聞きながら、わかりにくかった点、もっと詳しく知りたい点、素朴な質問などをどんどん尋ねる。
- ③ 質疑応答の中で、話し手は話すべき情報を空欄にメモする。

ポイント・注意点

- ※ 学生の中には、メディアで聞くような大きな失敗を経験していないので、何を話したらいいか迷う学生もいる。ここでは、学生の人生の中で本人にとって学びがあり、それが相手にも役立つものであればよしとする。
- ※ 体験談は言えても、気づきや学びが言えない話題は、今回の発表には使わないようにアドバイスする。自分で気づきも言えても、学びがうまく言えない場合は、聞き手からアドバイスをもらったり、聞き手が失敗談から何を学んだか尋ねるとよい。
- ※ 教訓が他の学生とかぶっても、失敗の背景や結果の大きさは異なるので、安心して話すよう促す。トラウマになっているような深刻な話は無理にさせない。

4. 個人でワーク：スピーチ(3～5分)の準備を進めよう！ [10～15分]

ワークの目的

必要な情報を見極め、内容を充実させ、全体を整える。

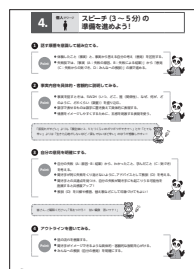
手順

(1) ワークの進め方と注意点・目的などについて確認する。

(2) テキストの手順(①～④)に沿って個人でワークを進めさせる。

- ① 話す順番を意識して組み立てる。体験談を話すときは「事実」と「意見」を区別することを確認する。今回の教訓スピーチでは、事実(A失敗の原因、B失敗による結果)と意見(C失敗からの気づき、Dみんなへの教訓)に分ける。
- ② 事実内容を具体的・客観的に説明してみる。事実説明のところで、情報の基本5W2H(いつ、どこで、誰(関係性)、なぜ、何が、どのように、どれくらい(数量)の要素が入っているかを確認する。必要に応じて、五感を使った表現(視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚)を足し、より具体的、客観的な説明を心がける

テキスト pp.46-47



よう促す。

- ③ 自分の意見を明確にする。この経験から「C失敗からの気づき」がいくつあるか、複数ある場合は「気づいたことは3つあります。1つ目は……」のように、番号を使って説明するよう指示する。次に、気づいたことから導かれる「Dみんなへの教訓」を一言にまとめるように指示する。このとき、自分の気づきを聞き手の学びへとつなげるために、特にどんな人に気をつけてもらいたいのか、特にどんなときに注意が必要か、などの情報を話させる。それにより、聞き手に「自分にも起こりうること」として聞いてもらいやすくなることを伝える。

※ オプションとして、教訓を五七五の川柳や標語、流行語になぞらえる、替え歌などに置き換えてもよい。クリエイティブな締めくくりを奨励する。オプションに挑戦したい人は、クラスメートの知恵を借りる。

- ④ アウトラインを書く。

話す順、具体的・客観的な事実説明、意見のポイントを押さえながら、3部構成に落とし込み、全体を整える。

ポイント・注意点

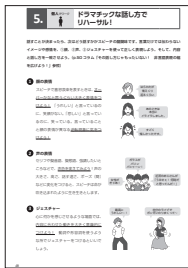
- ※ アウトラインは長い文章で書かず、箇条書きやキーワード、的確で簡潔な言葉で記入するよう指導する。そうすることでアウトラインの丸読みを避け、なるべく目線を聞き手に向けることができる。
- ※ 序論→原因→結果→気づき→教訓へと話題転換するとき、「まずはじめに」「次に」「最後になりますが」のようなつなぎの言葉を入れて、話の流れを聞き手がわかるような配慮をするように指導する。
- ※ スピーチの始まりと締めくくりは、しっかりと挨拶をするように指示する。
- ※ 本番でアウトラインの持ち込みを許可するか否かは、担当教員の判断とする。
- ※ 川柳や標語を視覚化して見せたいという学生がいる場合、後ろの学生まで見えるように大きい字で見せるよう指導する。
- ※ 聞き手の記憶に残すために、オプションをクラス全員で復唱させることを推奨するとよい。
- ※ 時間に応じて、この作業は宿題とすることも可。

5. 個人でワーク：ドラマチックな話し方でリハーサル！ [5分] (ペアでワーク／グループでワークも可)

ワークの目的

いかに自分の話し方がワンパターンかを認識させ、メリハリをつけて、話し方のバリエーションを増やす。時間管理を意識させる。

テキスト p.48



手順

(1) ドラマチックな話し方にする3つの要素について、各ポイントを説明する。

ポイント・注意点

※「①顔の表情」は、自分が思っている以上に大きく、はっきりつけないと、聞き手に真意が伝わらない。今となっては笑い話でも、そのとき感じた気持ちをストレートに表現することを強調する。体験談では、ポジティブな感情では顔が暗く、ネガティブな感情を笑顔で話す「逆転現象」が起きやすい。謙遜や照れ隠し、緊張が原因だが、これは誤解を生むことを説明する。

※「②声の表情」では、終始同じトーンで話さず、台詞、擬音語、擬態語や強調したいところで声の調子を変えると、生き生きとしたスピーチになり、声色によって、言葉の意味合いが違って聞こえることを認識させる。例えば、「ごめんなさい」「ありがとう」などの短い言葉を、5つの声の要素がわかるように、①大きい声で／ささやく声で、②高音で／重低音で、③早口で／ゆっくりで、④アニメの声色で／車掌さんの声色で、⑤「ごめん」の後に間をおいて、教師が言ったあとに、学生に復唱させるといい。いかに自分の話し方がワンパターンであるかを認識させることができる。

※「③ジェスチャー」では、どこに動きをつければいかわからないという学生がいる場合、動詞や形容詞、数字を使うような場面で動きをつけるようにアドバイスする。メッセージ性が強いトピックほど、熱意を含めたジェスチャーがつけやすくなる。ジェスチャーは大げさなくらい大きくつけると効果的であるが、動きっぱなしは落ち着きがないと見られ、逆効果になる。目安として、話の山場でジェスチャーをつけるように指導するとよい。

※ 共感を得るために、内容と話し方を一致させること、話し方にメリハリをつけることを強調する

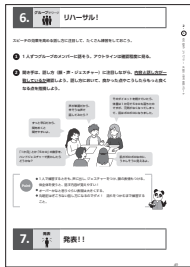
(2) 非言語コミュニケーションに関するコラム「その話し方じゃ、もったいない！」(テキスト p.50) を読んでくるように指導する。

6. グループでワーク：リハーサル！ [残りの時間]

ワークの目的

いかに自分の話し方がワンパターンかを認識させ、メリハリをつけて、話し方のバリエーションを増やす。時間管理を意識させる。

テキスト p.49



手順

(1) ワークの進め方について確認する。





(2) テキストの手順 (①～③) に沿ってワークを進めさせる。

- ① 同じグループで、話し手はアウトラインを確認程度に見ながら、話し方に変化をつけることを意識して1人ずつ練習する。
- ② 聞き手は、内容に合った話し方になっているか確認し、話が終わったら主に話し方において良かった点や改善点を指摘する。話し手は、聞き手のコメントをアウトラインに記入し、今後の練習に役立てる。

ポイント・注意点

- ※ 教師がタイムキーパーとなり、なるべく制限時間内に話が収まるように学生に促す。
- ※ 講義内で時間がない場合は、この作業を次週に回し、発表の直前に行ってもよい。

● 2 回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10～15分	発表前の確認事項	ヒント集限定! 
(2.)		(個人作業「リハーサル」)	ヒント集限定! 
3.	残りの時間	個人発表と相互評価	ヒント集限定! 
4.	5分	宿題の確認	ヒント集限定! 

1. 発表前の確認事項 [10～15分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[→ PDF p.40]
(発表者の人数×聞き手の人数)

タイマー

残り時間を伝えるカード

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ・ アウトラインを確認してもよいが、原稿は読まないこと。
- ・ 制限時間を確認する。制限時間より早く終わってしまった場合、制限時間を越えてしまった場合のルールを事前に決めておく。

(2) 相互評価についての指導。

- ・ 今回の学習目的を確認する。
- ・ 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- ・ 聞き手は発表中、話し手のほうに体を向けてしっかり聴くように指導する。スピーチが終わってから相互評価シートを記入させる。
- ・ 大切なフィードバックなので、発表をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- ・ 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良いスピーチになるか、具体的に書くよう指導する。
- ・ 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- ・ 内容に関する素朴な質問も記入してよい。
- ・ 相互評価シートは発表後に回収し、授業の最後に各発表者に渡す。回収は、スピーチを終えた直後の学生が、自分の1つ前に発表した学生の相互評価シートを集めるようにすると時間が有効に使える。(発表者はスピーチ後、自分の評価が記入されている間はすることがないため。)一番目に発表した学生には、最後の学生の相互評価シートを集めることも伝える。

(3) 発表順を決める。

- ・ 発表順に、発表者名をホワイトボードなどに記入させるとよい。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・発表が2週にわたる場合、発表しない学生からタイマー係や撮影係を決める。

ポイント・注意点

- ※ 発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ タイマー係には、「あと1分」「あと30秒」などと大き目にしたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
- ※ 相互評価シートを回収後すぐに本人に渡すと、読むことに集中してしまい、次の発表者のスピーチを聞かないことがある。それを避けるため、回収後はいったん教師が預かり、全員のスピーチが終わってから手渡すとよい。その場合、回収後は教師に渡すように指示すること。
- ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷の防止策として評価者の名前を記入させてもよい。

(2. リハーサル [10～20分])

時間があれば、リハーサルを行う。Chapter1 (PDFのp.16) 参照。

3. 個人発表と相互評価

目的

発表と評価の実施。

手順

- (1) 1人ずつ前に出て、発表を行わせる。
- (2) 個人の発表終了ごとに、聞き手に相互評価シートを記入させる。その間に、教師は発表者に口頭でフィードバックを行う。
- (3) 話し手にはクラスメートから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

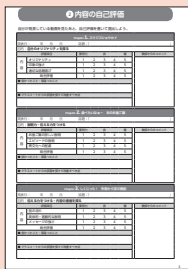
ポイント・注意点

- ※ 学生の人数が多い場合、発表は2週に分ける。
- ※ 各発表後に（発表者以外の学生が相互評価シートを記入している時間内）教師は発表者に対して個人的にコメントする（他のクラスメートに聞こえないように隅で行うとよい）。もしくは、教師から見た良い点や改善点をクラスで共有する形でもよい。
- ※ 発表直後の学生は、緊張からの解放により教師のフィードバックが耳に入らない場合がある。安静してから行うか、短いコメントに留めておくもよい。

- ※ まず、良かった点、頑張った点などのコメントを先にいくつか伝える。注意点を口頭で伝える場合は、最後に1つだけ伝える程度にするとよい。
- ※ 全員の発表が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

4. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

- (1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。
- (2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。
 - 自分の発表体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
 - 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。

相互評価シート：Chapter 3. しくじった！失敗から学ぶ教訓

発表者の名前： _____ 発表日： _____ 年 月 日 限

【この章の目標】 自分の伝えたいイメージや感情を正しく表現できる

評価項目		要努力	良	優
①	目の「表情」	1 2 3 4 5		
②	声の「表情」	1 2 3 4 5		
③	顔の「表情」	1 2 3 4 5		
④	ジェスチャー	1 2 3 4 5		
⑤	教訓・メッセージの強さ	1 2 3 4 5		
⑥	話の流れのわかりやすさ	1 2 3 4 5		
⑦	イメージしやすい言葉	1 2 3 4 5		
⑧		1 2 3 4 5		

●良かったところ

●より良くするためのアドバイスや質問

●共感度数

共感 できなかった	あまり共感 できなかった	ふつう	共感できた	とても 共感できた
--------------	-----------------	-----	-------	--------------

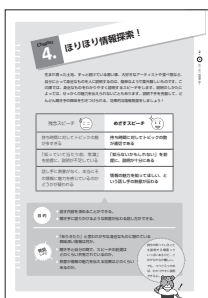
Chapter 4. ほりほり情報探索！

＜語彙力を駆使して、情報を魅力的に発信するスピーチ＞

日常会話では、特に意識しないかぎり、何かを説明するときには主観的表現に頼りがちです。また、ソーシャルメディアを使ってテンポよく短いことばをやり取りするコミュニケーションに慣れているせいか、学生たちは、数分間というまとまった時間を使って、じっくりと、さまざまな語彙を駆使して丁寧に説明することに面倒や困難を感じる傾向にあります。「かわいい!」「まじですごい!」「やばい!」という普段の会話では、あるモノや人物に感動したり驚いたりしている話し手の気持ちは聞き手に伝わりますが、そのモノや人自体の情報は表面的で、詳しく伝えることはできません。おしゃべりを楽しむ会話ならそれでよいですが、学業や仕事の場面では情報を細部にわたってコミュニケーションを取る能力が求められます。

学生にとって、情報発信には2つの難しさがあると思います。1つめは情報の質の問題です。「ありきたりの情報は出たくない」というプレッシャーから、学生はテーマ選びに悩みます。実は、情報の質を高めるためには、テーマ選びと同じくらい、情報の中身を精査することが大切なのですが、学生はテーマ選びに時間をかける一方、選んだテーマの情報については広く浅く、さまざまな情報を羅列するだけの傾向にあります。そこで本章では、身近であっても、トピックを絞り込み、内容を掘り下げることによって、十分に聞き手の興味をひくことのできるテーマを発見できるようにしました。


もう1つは、説明力の問題です。ここでは、自分たちがいかに主観的な説明をしているかに気づき、そのうえで、主観的な表現を客観的、具体的に言い換えることで語彙力を強化し、表現の幅を広げる練習をします。また、情報を並べる順番と時間配分に注意を促すことで、説明力を高めていきます。



学習目的	
★ 身近なものに隠れている興味深い情報を見つける。	
★ 聞き手と共有していると思われる情報の前提が意外と少ないことに気づく。	
★ 熱意が情報の魅力を伝える効果を確認する。	
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目……………スピーチの準備	
2回目以降……発表	
発表形式	
1人ずつの発表（各人3分）	
準備するもの	
① A4の白紙（人数分） ※アイスブレイキング・アクティビティ①で使用	
② 相互評価シート（発表者の人数×聞き手の人数）	→このPDFのp.51

授業の進め方の例と注意点

● 1 回目 <スピーチの準備>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0.	20～30分	アイスブレイキング・アクティビティ①：「お気に入りの店」 アイスブレイキング・アクティビティ②：「目線で語りかけ」	ヒント集限定！ 
1.	5～10分	個人でワーク「テーマを探ろう！」	p.52
2.	3～5分	グループでワーク「テーマを決めよう！」	p.53
3.	10～20分	個人でワーク「スピーチの内容を深めよう！」	p.54
4.	10～15分	個人でワーク「スピーチ（3分）の準備を進めよう！」	p.60
5.	(残りの時間)	個人でワーク「アウトライン作成」（宿題にしても可）	p.59

0-1. アイスブレイキング・アクティビティ①：「お気に入りの店」【15分程度】

目的	日常ではいかに非言語コミュニケーションに頼って情報伝達をしているかに気づき、言葉だけで情報を伝えることの難しさを体験する。
手順と注意点	<p>用意するもの A4の白紙（人数分）</p> <p>手順 (1) ペアをつくって、隣どうしに座る。</p> <p>(2) エクササイズのルールを説明する。 <ul style="list-style-type: none"> 説明役は最寄り駅からお気に入りの店までの道順を説明する。説明の間、両手は机の上に載せ、動かしてはいけない。 聞き手は、説明の言葉だけを頼りに最寄り駅からお気に入りの店までの地図を書く。 制限時間 5分 </p> <p>(3) 役割を交代する。</p> <p>(4) クラス全体でエクササイズを繰り返す。</p> <p>ポイント・注意点 <ul style="list-style-type: none"> ※ 聞き手は質問をしない。ふり返りで質問したかったことを聞くと、説明が足りなかったところを確認できる。 ※ 「ここに」など、手で紙を指して説明しないように、説明役は両手を机の上に </p>

	<p>載せるルールは厳密に守るように注意する。</p> <ul style="list-style-type: none">※ 言葉だけでの説明の難しさを実感させるために、「そっち」と顎で方向を指すなど、ジェスチャーを使わないように注意する。※ その地図だけを頼りに明日その店に行けるように、なるべく情報を細かく伝えるようにする。※ ふり返りでは、「ちょっと行くと」「しばらくまっすぐ」など、主観的な表現に注意を向け、「○メートル」や「△番目の角」など、客観的な説明をしたかどうかを確認する。また、地図や文字など、目から入る情報を言葉で説明するときは、余計に時間がかかることにも注意を向ける。
--	--

0-2. アイスブレイキング・アクティビティ②：「目線で語りかけ」 [15分程度]

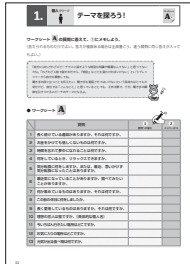
目的	話し手として自分がどのようにアイコンタクトをしているのか、また、聞き手の態度が話し手の語りかけに与える影響に気づく。
手順と注意点	<p>手順</p> <p>(1) 「お気に入りの店」2つのペアを合わせて、4人のグループをつくる。</p> <p>(2) アクティビティのルールを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 話し手は自分が作成した地図を頼りにペアのパートナーの最寄り駅から自宅までの道順を説明する。・ 「自分と目が合っているな」と感じた聞き手は、人差し指を上げて合図する。「目線が他の人に移ったな」と感じたら、人差し指を下げる。・ 制限時間2分 <p>(3) 役割を交代しながら、4回くり返す。</p> <p>(4) クラス全体でアクティビティをふり返る。</p> <p>ポイント・注意点</p> <ul style="list-style-type: none">※ 聞き手は、話し手と目が合っている間は、人差し指を上げ続ける。※ ふり返りでは、誰かと常にアイコンタクトを取っているか、同じ人とばかりアイコンタクトを取っていないか注意する。また、アイコンタクトが取りやすい聞き手の態度（うなずき、表情など）にも注意を向け、スピーチにおける聞き手の役割の重要性、「語りかけ」は双方向コミュニケーションがあって初めて可能になることも指摘する。（テキスト Part1 Chapter3 参照）※ 目線の移動をより視覚的に認識できるように、人差し指を上げる代わりに、○が書かれた札や小さな旗を用意してもよい。

1. 個人でワーク：テーマを探ろう！ [5～10分]

ワークの目的

テーマになる可能性のある、「身近なもの」をふり返る。

テキスト p.52



手順

各自で【ワークシート A】にある質問の答えを「①質問への答え」の欄に書きこむ。

ポイント・注意点

- ※ すべての質問に答える必要はないが、なるべく空欄のないようにする。
- ※ 1つの質問に対して2つ以上の答えを書いてもよい。
- ※ 違う質問に対して同じ答えを書いてもよい。例えば、1と2の答えが同じ「クラシックバレエ」でも構わない。(ただし、違う質問には違う答えを書いたほうが、あとでテーマを決めるときの選択肢が広がる。)
- ※ 思いついた答えを否定しないで、すべて書き留めるように励ます。
- ※ いくつか例を挙げると、学生は安心して答えを書きはじめる傾向がある。以下の Sample を参考に、答えの例を用意しておくとうい。

【ワークシート A】 (Sample)

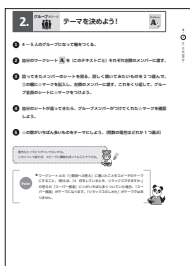
	質問	① 質問への答え
1	長く続けている趣味がありますか。それは何ですか。	筋トレ
2	お金をかけても惜しくないものは何ですか。	シャンプー
3	時間を忘れて夢中になれることは何ですか。	巨大生物の動画、 草むしり
4	何をしているとき、リラックスできますか。	猫と遊んでいるとき
5	気分転換に何をしますか。または、最近、思いがけず気分転換になったことはありますか。	ひとりカラオケ
6	最近気になっていることがありますか。調べてみたいことがありますか。	ダイエット、 防災グッズ
7	何か集めているものはありますか。それは何ですか。	マンホールの写真
8	この前の休日に何をしましたか。	映画、マンガ
9	長く愛用しているものはありますか。それは何ですか。	パジャマ
10	理想の恋人は誰ですか。(具体的な個人名)	
11	今いちばん行きたい場所はどこですか。	
12	お気に入りの場所はどこですか。	
13	元気が出る食べ物は何ですか。	いちご大福

2. グループでワーク：テーマを決めよう！ [3～5分]

ワークの目的

自分が「テーマによいのでは」と考えているモノと、聴き手が「もっとよく知りたい」と思っているモノとの間にズレが生じること、思いがけないモノがテーマになる可能性に気づく。

テキスト p.53



手順

テキストの手順(①～⑤)に沿ってワークを進める。

- ① クラス全体を、くじやトランプ、番号の割り振りなどで1グループ4～5人になるようにグループ分けをする。席は対面式にして座らせるとよい。
- ② お互いにメンバーのテーマ選びを手伝う。
 - ・ グループのメンバーで輪になり、質問の答えが書かれた【ワークシートA】(テキスト p.52)を左隣の人に渡す。
 - ・ 受け取ったシートの中で、詳しく知りたいと思った答えを1つ選び、【ワークシートA】の「②メンバーから」の欄に☆をつける。
 - ・ ☆をつけたワークシートを左隣の人に渡す。自分のワークシートが手元に戻ってくるまでくり返す。
- ③ 自分の【ワークシートA】の「②メンバーから」の欄の☆の数を確認する。
- ④ ☆の数をもとに、テーマを決める。

ポイント・注意点

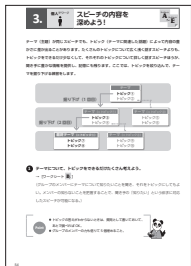
- ※ ワークシートはテキストごとまわす。
- ※ ☆は1つのシートに対して「1つだけ」つけることを徹底する。複数にすると☆の数に差がでないため、結局テーマを選択できない。
- ※ 1つの質問に答えが複数ある場合は、どの答えに対する☆なのかがわかるように☆を書くように指示する。
- ※ テーマは、自分が話したいことよりも聞き手の興味(☆の数)を優先させる。
- ※ 違う答えに同数の☆がついている場合は、好きなテーマを1つ選択する。
- ※ テーマの対象となるのはあくまで質問の「答え」であり、質問がスピーチのテーマではないことに注意する。例えば、学生が勘違いをして「私の休日の過ごし方」をテーマにスピーチを準備する可能性があるが、スピーチのテーマは「(休日に読む)マンガ」であり、課題はマンガについての情報提供であることを再度確認する。

3. 個人でワーク：スピーチの内容を深めよう！ [10～20分]

ワークの目的

トピックを絞り込み、1つのトピックについて深く話すために必要な情報を考える。

テキスト pp.54-58



手順

テキストの手順(①～④)に沿ってワークを進める。

- ①【ワークシートA】で選んだ答えを【ワークシートB】(テキスト p.55)のテーマの欄に書き込み、それについて考えられるトピックを5つ記入する。
- ②【ワークシートB】のトピックの中から1つを選び、それを【ワークシートC】(テキスト p.56)のテーマとして、トピックを5つ考える。
- ③【ワークシートC】のトピックの中から1つを選び、それを【ワークシートD】(テキスト p.57)のテーマとして、トピックを5つ考える。
- ④【ワークシートE】(テキスト p.58)を使って実際に見たり、体験したり、使ったりするための情報を考える。

ポイント・注意点

- ※ トピックの答えがわからない場合は、質問として書いておいて、あとで調べればよいことを伝える。
- ※ アイデアを出す段階では、質より量が勝負であることを伝える。ここでは、トピックの良し悪しを考えるのではなく、トピックを5つ考えて、トピックの選択の幅を広げることが大切。トピックの内容を吟味して最終的に選択するのはアウトライン作成の段階で行う。
- ※ なるべく5つのトピックを考えるように促す。他のグループのメンバーに助けられてもよいので、とにかく数を多く出すように促す。
- ※ アクセス情報がなければ、聴き手が紹介したモノに興味を持って、どうすればよいかわからず、結局、必要な情報が足りない状況に置かれてしまうことへの気づきを促す。

4. 個人でワーク：スピーチ(3分)の準備を進めよう！ [10～15分]

ワークの目的

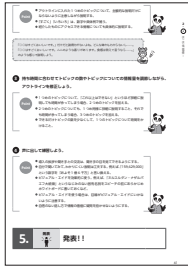
いかに主観的表現をしてしまいがちであるかに気づかせ、聞き手が感じる疑問への想像力を働かせる。

手順

テキストの手順(①～④)に沿ってワークを進める。

- ①【アウトラインシート】(テキスト p.59)を参考にアウトラインを書く。
- ②【練習】(テキスト p.60)を使って、具体的・客観的説明の練習をする。
 - [Sample]を参考に、普段してしまいがちな説明が主観的であることに注意を向ける。
 - 空欄【 】に主語を入れる。主語はアウトラインで選んだテーマとは関係のない言葉でもよい。
 - 「主観的な説明」に対する質問を考える。主語への質問ではなく、「おいしい」「かわいい」などの述語への質問であることに注意を促す。例えば、「きりたんぼはこの地方の食べ物ですか」という質問はNG。
 - いくつか発表してもらったあと、感想を聞きながら練習を繰り返す。

テキスト pp.59-61



- ・ 質問への答えを考えると、具体的・客観的表現につながることを説明する。一問一答形式ではなく、1つの質問に対して複数の答えを伝え、正確な情報の説明になる。

③ ②の練習を参考に、持ち時間に合わせてアウトラインを修正する。





ポイント・注意点

- ※ スピーチを準備するときは、主観的表現に注意し、先回りして質問に答えることで、聞き手に疑問を抱かせない、丁寧な情報提供ができることを強調する。
- ※ 「すごい」「いろいろ」をNGワードにすると効果的。そのとき、もし「すごい」「いろいろ」と言ってしまったら、主観的表現をしてしまっても、そのあとで客観的・具体的説明を補足すれば問題ないことを伝える。(NGにするのは、言うてはいけないという禁止ではなく、あくまで主観的表現を意識することが目的であることを理解させる。)
- ※ 【練習】を宿題にして、アウトライン作成に授業時間を使ってもよい。その場合、練習の目的とやり方は説明しておく。
- ※ なるべくクラスメートの興味に応えるスピーチをすすめるが、どうしても選ばれたテーマで話すことができないという学生がいた場合は、テーマを変更することを許可する。ただし、内容を掘り下げる手順をくり返して、トピックを決めることを確認する。

● 宿題

	所要時間の目安	宿題	テキスト
1.	60分	リハーサルを行う。 ポイント・注意点 ※ テキストに書かれているポイントの他に、声に出すことで持ち時間に合わせて情報量を微調整できるメリットがあることを伝える。	—

● 2 回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10～15分	発表前の確認事項	ヒント集限定！ 
(2.)		(個人作業「リハーサル」)	ヒント集限定！ 
3.	70分	個人発表と相互評価	ヒント集限定！ 
4.	5分	宿題の確認	ヒント集限定！ 

1. 発表前の確認事項 [15分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[→ PDF p.51]
(発表者の人数×聞き手の人数)

タイマー

残り時間を伝えるカード

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ・ ビジュアルエイドを使ってもよいが、目線に注意する。
- ・ アウトラインを確認してもよいが、原稿は読まないこと。
- ・ 制限時間を確認する。制限時間より早く終わってしまった場合、制限時間を越えてしまった場合のルールを事前に決めておく。

(2) 相互評価についての指導。

- ・ 今回の学習目的を確認する。
- ・ 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- ・ 聞き手は発表中、話し手のほうに体を向けてしっかり聴くように指導する。スピーチが終わってから相互評価シートを記入させる。
- ・ 大切なフィードバックなので、発表をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- ・ 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良いスピーチになるか、具体的に書くよう指導する。
- ・ 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- ・ 内容に関する素朴な質問も記入してよい。
- ・ 相互評価シートは発表後に回収し、授業の最後に各発表者に渡す。回収は、スピーチを終えた直後の学生が、自分の1つ前に発表した学生の相互評価シートを集めるようにすると時間が有効に使える。(発表者はスピーチ後、自分の評価が記入されている間はすることがないため。) 一番目に発表した学生には、最後の学生の相互評価シートを集めることも伝える。

(3) 発表順を決める。

- ・ 発表順に、発表者名をホワイトボードなどに記入させるとよい。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・ 発表が2週にわたる場合、発表しない学生からタイマー係や撮影係を決める。

ポイント・注意点

- ※ 発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ タイマー係には、「あと1分」「あと30秒」などと大き目に書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
- ※ 相互評価シートを回収後すぐに本人に渡すと、読むことに集中してしまい、次の発表者のスピーチを聞かないことがある。それを避けるため、回収後はいったん教師が預かり、全員のスピーチが終わってから手渡すとよい。その場合、回収後は教師に渡すように指示すること。
- ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷の防止策として評価者の名前を記入させてもよい。

(2. リハーサル [10～20分])

時間があれば、リハーサルを行う。Chapter1 (PDFのp.16) 参照。

3. 個人発表と相互評価 [70分]

目的

発表と評価の実施。

手順

- (1) 1人ずつ前に出て、発表を行わせる。
- (2) 個人の発表終了ごとに、聞き手に相互評価シートを記入させる。その間に、教師は発表者に口頭でフィードバックを行う。
- (3) 話し手にはクラスメートから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

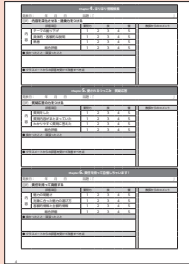
ポイント・注意点

- ※ 学生の人数が多い場合、発表は2週に分ける。
- ※ 各発表後に（発表者以外の学生が相互評価シートを記入している時間内）教師は発表者に対して個人的にコメントする（他のクラスメートに聞こえないように隅で行うとよい）。もしくは、教師から見た良い点や改善点をクラスで共有する形でもよい。
- ※ 発表直後の学生は、緊張からの解放により教師のフィードバックが耳に入らない場合がある。安静してから行うか、短いコメントに留めておくるとよい。
- ※ まず、良かった点、頑張った点などのコメントを先にいくつか伝える。注意点

- を口頭で伝える場合は、最後に 1 つだけ伝える程度にするとよい。
- ※ 全員の発表が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
 - ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

4. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

- (1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。
- (2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。
 - 自分の発表体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
 - 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。

相互評価シート：Chapter 4. ほりほり情報探索！

発表者の名前： _____ 発表日： _____ 年 月 日 限

【この章の目標】 テーマを掘り下げ、熱意を感じさせる説明ができる

評価項目		要努力	良	優		
①	持ち時間を最大限に使っていた	1	2	3	4	5
②	トピックの数が最小限に抑えられ、テーマが掘り下げられていた (×広く浅く ○狭く深く)	1	2	3	4	5
③	客観的な説明だった	1	2	3	4	5
④	具体例が示されていた	1	2	3	4	5
⑤	聞き手に語りかけていた	1	2	3	4	5
⑥	熱意が感じられた	1	2	3	4	5
⑦		1	2	3	4	5

●良かったところ

●より良くするためのアドバイスや質問

●詳細度数

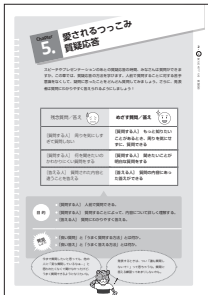
大ざっぱな説明でわかりにくかった	あまり詳細な説明ではなかった	ふつう	詳細な説明だった	とても詳細な説明だった
------------------	----------------	-----	----------	-------------

Chapter 5. 愛されるっこみ 質疑応答

< 発表後に苦手意識を持たないで質疑応答ができるようになる >

発表の最後の質疑応答の時間に、「何を質問したらいいのかわからない」「こんなこと聞いたらダメかな?」と思っている学生は多くいます。また良い発表をしたとしても、聞き手からの質問に答えられず、あたふたとする学生もいます。多くの学生が、質問することや質問に答えることに苦手意識を持っており、質疑応答がうまくいかないことがあります。


発表は自分ひとりで練習することができ、練習をすればするほど上手になります。しかし、質疑応答の練習は質問してくれる人、聞き手が必要です。そこで本章では、質問するという行為について考え、次に身近なトピックで質疑応答の実践練習を行い、質問することができる、そして、きちんと質問に答えられる、両方の力を高めていきます。



学習目的	
★ [質問する人]	人前で質問できる。
★ [質問する人]	質問することによって、内容について詳しく理解できる。
★ [答える人]	質問にわかりやすく答えることができる。
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目……………	スピーチの準備
2回目以降……	発表と質疑応答
発表形式	
グループ内で1人ずつ発表（各人2～3分）	
グループ内で質疑応答（各発表後10分）	
準備するもの	
相互評価シート（発表者の人数×聞き手の人数） →このPDFのp.59	

授業の進め方の例と注意点

● 1回目 <スピーチの準備>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0	15～20分	アイスブレイキング・アクティビティ：「ウソつきは誰？」	ヒント集限定！ 
1	20～30分	グループでワーク：「質疑応答」について考えよう！	p.64-65
2	15～20分	グループでアクティビティ：質疑応答の練習！（「好きな食べ物について」）	p.66
3	10分	質疑応答のための発表準備の説明	なし

0-1. アイスブレイキング・アクティビティ：「ウソつきは誰？」 [15～20分程度]

目的	グループで楽しみながら緊張をほぐし、質疑応答に慣れる。
手順と注意点	<p>用意するもの</p> <p>B5の白紙（人数分）（※なければノートなどに書かせる）</p> <p>手順</p> <p>(1) 番号の割り振りなどで、1グループ4～5人になるようにグループ分けをする。この日の授業は終始このグループで協働作業をしていく。グループで一緒に座る。</p> <p>(2) アクティビティのルールを説明する。</p> <p>① クラス全員、自分のことについて3つの文を紙に書く。3つのうち1つだけ、ウソのことを書く。</p> <p>[例1]</p> <p>① 私の祖父は双子です。 ② 私は双子です。 ③ 私の母は双子です。</p> <p>[例2]</p> <p>① 小学校のときにテレビに出たことがあります。 ② 先週、有名な芸能人に会いました。 ③ 家族以外の人と住んでいます。</p> <p>② グループのメンバー間で、発表する順番をジャンケンで決める。 ③ 発表者は他のメンバーに3つのことをウソがばれないように、全部本当のことのように発表する。</p>

手順と注意点

- ④ 聞き手のメンバーそれぞれが発表者に質問をしていく。4人グループの場合、3つのことに対して、3名で合計9問だけ質問ができる。
- ⑤ 質問が終わったら、どれがウソか当てる。

(3) 役割を交代する。

(4) クラス全体でアクティビティを繰り返す。

ポイント・注意点

※ アイデアが出てこない学生には、いくつか例を出す。

[例] 私はカレーを食べません。
私の祖父は有名人です。

※ 誰もがそれは本当だとわかることは言わない。

[例] 私は今まで物を盗んだことはない。
私は学生である。

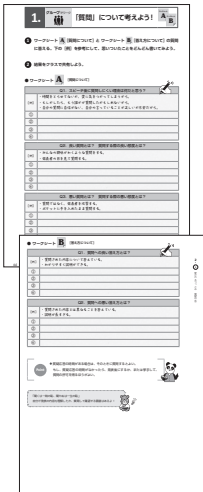
※ メンバーどうしがまだよく知らない場合は、自己紹介としてできるアクティビティだが、すでにお互いをよく知っている場合は、メンバーが知らない過去のことが書きやすい。

1. グループでワーク：「質疑応答」について考えてみよう！ [20～30分]

ワークの目的

質疑応答についてどのようなことを思っているか、グループで考える。

テキスト pp.64-65



手順

テキストの手順 (①～②) に沿ってワークを進める。

- ① グループで【ワークシートA】の[質問について]と、【ワークシートB】の[答え方について]、例を参考にして思いついたことを書くように指示する。
- ② グループで出た結果をクラスで共有する。

ポイント・注意点

※ アイデアが出てこない学生には、いくつか例を示す。

[例]

ワークシートAの「Q1. スピーチ後に質問しにくい理由は何だと思う？」

- ・ 発表者の言うことが正しいと発表を聞く前から思っているので、初めから質問しようと思って聞いていない。

2. グループでアクティビティ：質疑応答の練習！ [15～20分]

ワークの目的

簡単なトピックで、
質疑応答の練習をし、
質疑応答に慣れる。

テキスト p.66



手順

テキストの手順(①～④)に沿ってアクティビティを進める。

- ① 同じグループで質疑応答の練習を行う。グループのメンバーの間で発表する順番をジャンケンで決める。
- ② 好きな食べ物をテキストの欄に3つ書くように指示する。
- ③ 発表者は他のメンバーと同じ食べ物にならないように、好きな食べ物を1つ選び、発表する。
- ④ 発表者は質問に対して、あまり時間をかけずにテンポ良く答えていく。
- ⑤ 聞き手は、3分間次々と質問をして話を引き出すようにする。
- ⑥ 役割を交代し、次の発表者も③～⑤をくり返す。

ポイント・注意点

- ※ 時間があるかぎり、聞き手は次々に質問する。もし、質問が出ないようであれば、「ペチャクチャ質問集」(テキスト p.89)に記載されている「食べ物編」の質問を紹介する。
- ※ 「はい/いいえ」だけで答えられる質問ではなく、理由や意見などを答える質問をするように説明する。
- ※ 考える時間が長ならないように、テンポ良く答えるようにする。
- ※ なるべく多くの質問をするようにする。



3. 質疑応答のための発表準備の説明 [10分]

目的	以前に発表したスピーチを使って、質疑応答の練習をし、質疑応答に慣れる。
手順と注意点	<p>手順</p> <p>(1) 以前に発表したスピーチを2～3分程度にまとめ、来週もう一度発表するよう指示する。</p> <p>ポイント・注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 発表がメインではなく、発表後の質疑応答の実践がメインだが、わかりにくい発表は、聞き手が質問しにくいので、しっかりと練習をしてくるように説明する。 ※ スピーチは、発表者が話しやすいスピーチを、以前発表したものの中から自由に選んでよいことにする。

● 宿題

	所要時間の目安	宿題	テキスト
1.	15～30分	以前発表したスピーチを再度練習する。	—

● 2 回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10～15分	発表前の確認事項	ヒント集限定！ 
2.	70分	グループでワーク：質疑応答の実践！（個人発表と相互評価）	p.67
3.	5分	宿題の確認	ヒント集限定！ 

1. 発表前の確認事項 [10～15分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[PDF → p.59]
(発表者の人数×聞き手の人数)

タイマー

残り時間を伝えるカード

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ・ ビジュアル・エイドを使ってもよいが、目線に注意する。
- ・ アウトラインを確認してもよいが、原稿は読まないこと。
- ・ 制限時間を確認する。

(2) 相互評価についての指導。

- ・ 今回の学習目的を確認する。
- ・ 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- ・ 聞き手は発表中、話し手のほうに体を向けてしっかりと聴くように指導する。
- ・ 発表と質疑応答が終わってから相互評価シートの「質問に答えるとき①・②」と「応答度数」を記入させる。
- ・ グループのメンバー全員の発表と質疑応答が終わってから、全員の相互評価シートの「質問をするとき③・④・⑤」と「質問度数」とコメント欄を記入させる。
- ・ 相互評価シートはグループ全員の発表と質疑応答後に記入してから回収し、発表者に渡す。
- ・ 大切なフィードバックなので、質疑応答をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- ・ 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良い質疑応答になるか、具体的に書くよう指導する。
- ・ 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- ・ 内容に関する素朴な質問も記入してよい。

(3) グループ内で発表順を決める。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・ 発表が2週にわたる場合、発表しない学生から順番にタイマー係や撮影係をやらせよう。

ポイント・注意点

※ 発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行

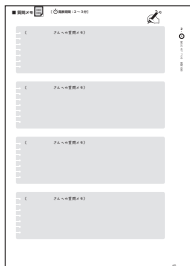
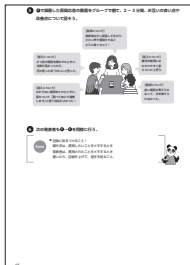
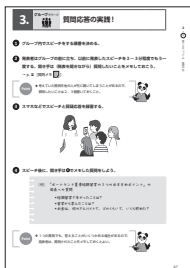
- う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ タイマー係には、「あと 1 分」「あと 30 秒」などと大きめに書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
 - ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷対策として評価者の名前を記入させてもよい。

2. グループでワーク：質疑応答の実践！（個人発表と相互評価）[70分]

ワークの目的

発表を聞いた後に質疑応答を実践する。

テキスト pp.67-69



手順

テキストの手順（①～⑥）に沿ってアクティビティを進める。

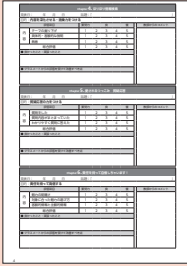
- ① 発表する順番をグループ内で決める。
- ② グループ内で、1人ずつ前に出て、発表を2～3分行わせる。聞き手は発表を聞きながらテキストの欄に質問したいことをメモするように指示する。考えていた質問を他の人が先に聞いてしまうことがあるので、質問は2、3個書くように指示する。質問メモ→〔テキスト〕p. 69
- ③ 発表と質疑応答を録画する。グループ全体が録画できるように携帯などを設置するか、撮影係が発表者と質問者を撮る。
- ④ 発表後に、聞き手は②でメモした質問をする。質問と応答の時間は、合わせて10分程度。
- ⑤ 録画した質問・応答をグループで観る。2～3分間、お互いの良い点について話させる。
- ⑥ 次の発表者も②～⑤を同様に行う。
- ⑦ 個人の発表と質疑応答終了ごとに、聞き手に相互評価シート「質問に答えるとき①・②」と「応答度数」を記入させる。
グループメンバー全員の発表と質疑応答が終わってから、全員の相互評価シートの「質問するとき③・④・⑤」と「質問度数」とコメント欄を記入させる。
- ⑧ 話し手にはグループメンバーから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

ポイント・注意点

- ※ 質問をメモするときに、発表者と目線を合わせながら書くようにするか、メモが済んだらすぐに目線を上げるように指示する。
- ※ 発表者も、1つの質問について、答えることがいくつかある場合があるので、質問を聞きながらメモをしてもよいことを説明する。その際の目線も気をつけるように注意する。
- ※ 質問は、聞き手が発表者の内容を理解したかを確認する（価値ある）時間である。
- ※ 携帯で録画するときは、グループメンバーが全員入るように固定して撮影するか、撮影係が発表者と質問者を同時に撮るようにする。
- ※ 学生の人数が多い場合、発表は2週に分ける。
- ※ 全員の発表と質疑応答が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

3. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

(1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。

(2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。

- 自分の質疑応答体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
- 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。

相互評価シート：Chapter 5. 愛されるつっこみ 質疑応答

発表者の名前：

発表日： 年 月 日 限

【この章の目標】 発表後に質疑応答ができる

評 価 項 目		要努力	良	優		
質問に答えるとき (発表者のとき)	① わかりやすく質問に答えていた	1	2	3	4	5
	②	1	2	3	4	5
質問をするとき (聞き手のとき)	③ 質問をしていた	1	2	3	4	5
	④ 質問内容がまとまっていた	1	2	3	4	5
	⑤	1	2	3	4	5

●良かったところ

●より良くするためのアドバイスや質問

●応答度数

質問に答えて いなかった	質問にあまりよく 答えていなかった	ふつう	質問に 答えていた	質問によく 答えていた
-----------------	----------------------	-----	--------------	----------------

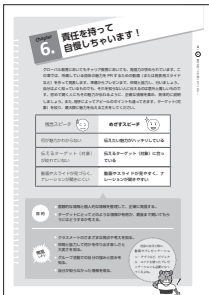
●質問度数

まったく質問を していなかった	あまり質問を していなかった	ふつう	質問を していた	よく質問を していた
--------------------	-------------------	-----	-------------	---------------

Chapter 6. 責任を持って自慢しちゃいます！

< 伝える対象者を特定し、その人にとって有用な情報を整理して、 正確に伝えるプレゼンテーションの練習 >


現在、グローバル教育においても、キャリア教育においても、「発信力」育成の重要性が叫ばれています。「発信力」とは、自分の意見や考えを、相手にわかってもらえるよう的確に伝えることです。現代の若者は、SNSなどのソーシャルメディアを多用していますが、人を傷つけるだけの批判や一方的な自己主張、選ぶ語彙の拙さなどが目立ちます。この章では、伝える相手を具体的に想定したうえで内容を吟味し、具体的で正確な情報を発信する練習をします。学生には、アピールの工夫を考えると共に、相手への想像力を責任を伴った発信力を身につけてほしいと考えています。さらに、グループでの協働を通し、役割分担や話し合いなどコミュニケーションを活発に行うことも目標としています。



学習目的	
★ 客観的な情報と主観的な情報を整理して、正確に発信する。	
★ 相手にとって有用な情報がどんなものか、最後まで聞いてもらうにはどうアピールするか考える。	
★ グループ活動を通してさまざまな視点や考えを知る。	
★ グループ活動での自分の強みと弱みを知る。	
★ 仲間との協働作業から、何かを作り出す楽しさと大変さを知る。	
★ 自分が知らなかった情報を得る。正確な情報の取得方法を学び、情報を得る。	
★ 情報を発信する際の責任について自覚する。	
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目……………動画またはスライド作成の準備	
2回目以降………発表	
発表形式	
動画またはスライドを使った1グループずつの発表	
準備するもの	
① 動画／スライドを見るための環境	
② 相互評価シート（聞き手の人数×発表グループの数）	→このPDFのp.70
③ 付箋（たくさん）・模造紙（グループの枚数）（ブレイン・ストーミングであるKJ法に使用）	

授業の進め方の例と注意点

● 1 回目 <プレゼンテーションの準備>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0.	5～10分	(1) アイスブレイキング・アクティビティ「仲間を探そう」 (2) グループ分けアクティビティ	ヒント集限定! 
1.	15～20分	全体でワーク「いろいろな大学の紹介動画を観てみよう！」	p.72
2.	15～20分	グループでワーク「アピールポイントを探そう！」	p.73
3.	10～15分	グループでワーク「動画の内容を決めよう！」	p.74
4.	15～20分	個人でワーク（宿題にしても可） →グループでワーク「調べよう！」	p.75
5.	10～20分	グループでワーク「動画を撮る準備をしよう！」	p.78
6.	(残り時間)	「動画を撮ろう！」	p.80
7.	3分	発表の確認	p.80

0-1. アイスブレイキング・アクティビティ：「仲間を探そう」[5～10分程度]

目的	同じことを思いつく人や同じ好みの人を知る。共通項を見つけることで、話しやすさを増す。
手順と注意点	<p>手順</p> <p>(1) 学生は起立する。教師が挙げたトピックについて学生はそれぞれ自分の答えを言いながら、同じ答えの人を探してグループをつくる。</p> <p>(2) 教師はそれぞれのグループに答えを聞いていく。</p> <p>[トピック例]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 好きなお寿司のネタ ② 日本（東京／地域）のおすすめの観光地 ③ 休みの日にすること ④ 大学の食堂のおすすめメニュー ⑤ 大学の中の好きな場所 ⑥ この大学出身の有名人 ⑦ 自分がとっているおすすめの授業 など <p>ポイント・注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ どのグループにも属さない場合は1人でよい。 ※ ④～⑦のように、自分の大学や学校などについての質問を入れることで、この章のテーマを少し意識させることになる。 ※ 学生が立って移動できるスペースが必要。

0-2. グループ分けアクティビティ [5分程度]

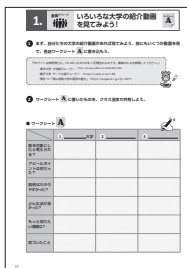
目的	アイデア集めから動画／スライド作成、発表まで協力して行うグループを決める。
手順と注意点	<p>手順</p> <p>1 グループ 3 ～ 5 人程度に分ける。</p> <p>【案 1：番号で集まる】 学生：順番に「1、2、3、1、2、3…」や「A、B、C、A、B、C…」などと言わせていき、同じ数字・アルファベットを言った学生でグループになる。</p> <p>【案 2：くじ引き】 あらかじめ 3 ～ 4 人程度のグループになれるようくじを作っておき、学生に引かせる。</p> <p>【案 3：数で集まる】 学生を自由に歩かせる。その途中で教師が適当な人数を指示。学生は、その人数で集まったらしゃがむ。数回くり返したら、最後に「3 人」あるいは「4 人」と指示を出し、グループをつくる。</p> <p>ポイント・注意点</p> <ul style="list-style-type: none">※ 案 3 には十分に動き回れるスペースが必要。手拍子や音楽などがあると歩きやすい。白熱しすぎてケガをしないように注意。※ 授業開始からある程度の日数が経ち、気の合う仲間などができている場合は、自分たちで決めさせたほうがグループワークがスムーズに進みやすい。特に動画作成は、授業外に集まることを考慮すると、メンバーが会いやすいほうがよい。ただしその際には、全員がどこかのグループに入れるよう気を配る。

1. 全体でワーク：いろいろな大学の紹介動画を観てみよう！ [15～20分]

ワークの目的

- ① これから自分たちが作る動画／スライド作成への意識づけ。
- ② さまざまな団体の魅力やアピールのしかたについて考える。

テキスト p.72



手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) 大学の紹介動画を映す。気づいたことを【ワークシート A】に記入しながら鑑賞させる。
- (3) 【ワークシート A】に書いたものを全体で共有する。

ポイント・注意点

- ※ 自分たちの大学や学校の紹介動画があれば観てみる。
- ※ 他にも、サークルや町の紹介、大学に限らず学校紹介の動画など、自分たちに合ったものを観るとよい。
- ※ 時間があれば、学生に探させ、希望のものを観てみるのも可能。
- ※ 全体での共有は、数名を当て発表させてもよいし、グループで意見交換したあと、各グループの代表に簡単に発表させるのもよい。

2. グループでワーク：アピールポイントを探そう！ [15～20分]

ワークの目的

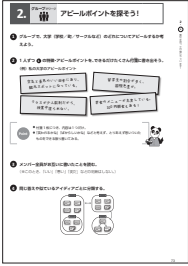
- ① 自分たちが学んでいる／関わっている大学や団体の良さについてあらためて意識する。
- ② 他者ならではの視点や自分にはない考えに気づく。
- ③ グループで協力して、意見を分析し、まとめる。

アピールポイントのリストアップおよび分類

手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) 各グループで、大学（学校／町／サークル）のどれについてアピールするか決めさせる。
- (3) KJ法を使い、意見をまとめさせる。
 - ① 1人ずつ特徴・アピールポイントを、できるだけたくさん付箋に書き出す。
 - ※ 付箋1枚につき、内容は1つだけ。
 - ※ 「笑われるかな」「ばからしいかな」などと考えず、とりあえず思いついたものを書く。
 - ② 書き終わったら、メンバー全員がお互いに書いたことを読む。
 - ※ このとき、「良い」「悪い」「変だ」などの判断はしない。
 - ③ 同じ答えや似ているアイデアごとに分類しながら、模造紙に貼る。
 - ④ 分類したかたまりにタイトルをつける。

テキスト p.73



用意するもの

付箋・模造紙

- ※ メンバーで協力しながらまとめるように促す。
- ※ 分類作業のときに新しいアイデアが出てきたら、それを加えてもよい。
- ※ 分類しきれないアイデアは、そのまま残してよい。

ポイント・注意点

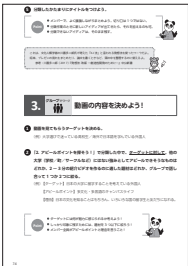
- ※ ここでは、KJ法をもとに簡略化した方法で、学習者のアイデアをまとめている。KJ法の詳細については、川喜田二郎(2017)『発想法 改版 一創造性開発のために一』中公新書を参照のこと。

3. グループでワーク：動画の内容を決めよう！ [10～15分]

ワークの目的

対象者を意識することで、アピールポイントを絞り、動画／スライドの作り方を工夫する。

テキスト p.74



動画／スライドを観せる対象者と、それに合ったアピールポイントの決定

手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) テキストの手順(①～②)に沿ってグループでワークを進めさせる。
 - ① 動画を観てもらおう相手(ターゲット)を決める。
[例] 大学選びで迷っている高校生／海外で日本語を学んでいる学生／大学院進学やゼミ選びに悩んでいる3年生
 - ② ターゲットに対して他の大学(学校／町／サークルなど)にはない強みとしてアピールできそうなものを選ぶ。
 - ③ 「2. グループでワーク：アピールポイントを探そう！」で分類したものを参考にし、
 - ・ターゲットには何が魅力に感じられるか
 - ・2～3分の紹介ビデオを作るのに適した題材はどれかグループで話し合って1つか2つに絞る。

ポイント・注意点

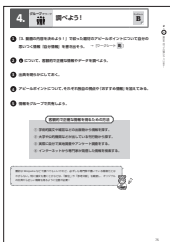
- ※ 教師は、メンバー全員が意見と理由を言っているかに注意を払い、促す。

4. 個人→グループでワーク：調べよう！ [15～20分]

ワークの目的

- ① 自分が感じている魅力について一度書いてみることで可視化する。
- ② メンバーのそれぞれの感じ方を知る。

テキスト p.75-77



客観的な情報および主観的な情報の整理

手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) テキストの手順(①～⑤)に沿ってグループでワークを進めさせる。
 - ① 前出の作業で絞った題材のアピールポイントについて、各自自分の思いつく情報「自分情報」を書き出す。(⇒【ワークシート B】)
 - ② ①について、客観的で正確な情報やデータを調べる。出典も明らかにしておく。
 - ③ アピールポイントについて、それぞれ独自の視点や「おすすめ情報」を加えてみる。(⇒【ワークシート B】)
※ 時間が足りない場合は、ここまでの個人作業を宿題としてもよい。
 - ④ ③までの作業が終わったら、情報をグループ内で共有する。

ポイント・注意点

- ※ サンプルを参照に、「自分情報」と「客観情報」との違いを明らかにする。
- ※ どのようなリソースに当たれば正確な情報が得られるかについても学んでほしい。

5. グループでワーク：動画を撮る準備をしよう！ [10～20分]

ワークの目的

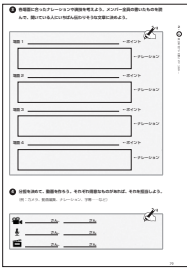
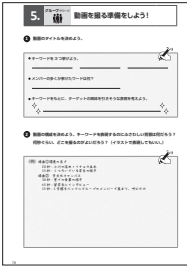
- ① 自分たちの作りたいものを具体的な形にしていく。
- ② 各自の得意なことを生かし、責任を持って役割を担う。

動画のタイトルおよび構成決め

手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) テキストの手順(①～④)に沿ってグループでワークを進めさせる。
 - ① グループで話し合い、動画のタイトルを決める。
 - ・ 各自キーワードを3つ挙げる。
 - ・ メンバーの多くが挙げたワードに注目する。
 - ・ キーワードをもとに、ターゲットの興味を引きそうな表現を考える。
 - ② 動画の構成を決める。(シーン決め)
 - ・ キーワードを表現するのにふさわしい背景は何か考える。
 - ・ 何秒ぐらい、どこを撮るのがよいか考える。

テキスト p.78-79



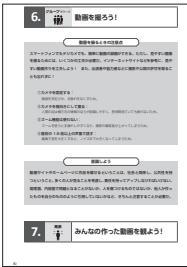
- ③ 各場面に合ったナレーションや演技を考える（ナレーション・演技決め）
 - ※ メンバー全員の書いたものを読み、聞き手にいちばん伝わりそうな文章にする。
 - ※ 誰か1人のものでなくてもよい。メンバーの文をつなぎ合わせて良いものを作るのも可。
- ④ 分担を決め、動画／スライドを作る。
 - ※ カメラ、動画編集、ナレーション、字幕など、それぞれ得意なものがあれば、それを担当する。

ポイント・注意点

- ※ 担当がない学生がいないか確認する。必ず何らかの役割を与える。
- ※ 動画を撮る際の注意点と公開のときの意識について確認する。

6. グループでワーク：動画を撮ろう！

テキスト p.80







ポイント・注意点

- ※ 動画作成の時間が授業内にとれない場合は、宿題とする。
- ※ 大学によってはカメラを貸してくれたり編集を手伝ってくれるサポートラウンジがある場合があるので、確認して利用するとよい。

7. 発表の確認：残り時間 [3分程度]

- (1) 動画の制限時間や発表の順番など、確認があれば行う。
- (2) 時間が足りなかった場合は、作業を翌週に延ばすか宿題にする必要があるの
で、最後に確認しておく。

● 2 回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10分	発表前の確認事項	ヒント集限定！ 
(2.)	(5～10分)	(グループ作業「リハーサル」)	ヒント集限定！ 
3.	残りの時間	グループ発表と相互評価	ヒント集限定！ 
4.	5分	宿題の確認	ヒント集限定！ 

1. 発表前の確認事項 [10分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[→ PDF p.70]
(発表者の人数×聞き手の人数)

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ・ スライド発表の場合、アウトラインを確認してもよいが、原稿やスクリプトは読まないこと。
- ・ 制限時間を確認する。制限時間より早く終わってしまった場合、制限時間を超えてしまった場合のルールを事前に決めておく。

(2) 相互評価についての指導。

- ・ 今回の学習目的を確認する。
- ・ 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- ・ 聞き手は動画再生／スライド発表中、話し手のほうに体を向けてしっかり鑑賞し／聞き、発表が終わってから相互評価シートを記入させる。
- ・ 大切なフィードバックなので、発表をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- ・ 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良いプレゼンテーションになるか、具体的に書くよう指導する。
- ・ 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- ・ 内容に関する素朴な質問も記入してよい。
- ・ 相互評価シートは発表後に回収し、授業の最後に各発表者に渡す。回収は、発表を終えた直後の学生が、自分の1つ前に発表した学生の相互評価シートを集めるようにすると時間が有効に使える。(発表者は発表終了後、自分の評価が記入されている間はすることがないため。)一番目に発表した学生には、最後の学生の相互評価シートを集めることも伝える。

(3) 発表順を決める。

- ・ 発表順に、発表グループ名をホワイトボードなどに記入させるとよい。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・ スライド発表の場合、発表しない学生からタイマー係や撮影係を決める。

ポイント・注意点

- ※ スライド発表の場合、発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ スライド発表の場合、タイマー係には、「あと 1 分」「あと 30 秒」などと大きめに書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
- ※ 相互評価シートを回収後すぐに本人に渡すと、読むことに集中してしまい、次の発表者のプレゼンテーションを聞かないことがある。それを避けるため、回収後はいったん教師が預かり、全員のプレゼンテーションが終わってから手渡すとよい。その場合、回収後は教師に渡すように指示すること。
- ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷の防止策として評価者の名前を記入させてもよい。

(2. リハーサル [5～10分])

手順

スライドを使った発表の場合、発表の直前にリハーサルを入れてもよい。

3. グループ発表と相互評価：みんなの作った動画を観よう！

目的

発表と評価の実施。

手順

- (1) 1 人ずつ前に出て、発表を行わせる。
- (2) 個人の発表終了ごとに、聞き手に相互評価シートを記入させる。その間に、教師は発表者に口頭でフィードバックを行う。
- (3) 話し手にはクラスメートから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

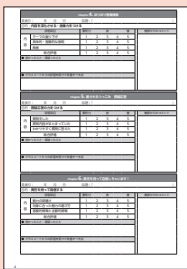
ポイント・注意点

- ※ 学生の人数が多い場合、発表は 2 週に分ける。
- ※ 各発表後に（発表者以外の学生が相互評価シートを記入している時間内）教師は発表者に対して個人的にコメントする（他のクラスメートに聞こえないように隅で行うとよい）。もしくは、教師から見た良い点や改善点をクラスで共有する形でもよい。

- ※ 発表直後の学生は、緊張からの解放により教師のフィードバックが耳に入らない場合がある。安静してから行うか、短いコメントに留めておくとうい。
- ※ まず、良かった点、頑張った点などのコメントを先にいくつか伝える。注意点を口頭で伝える場合は、最後に1つだけ伝える程度にするとよい。
- ※ 全員の発表が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

4. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

- (1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。
- (2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。
 - 自分の発表体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
 - 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。

相互評価シート：Chapter 6. 責任を持って自慢しちゃいます！

発表グループ：

発表日： 年 月 日 限

【この章の目標】 対象者に必要な情報を整理して、その魅力を伝える

評価項目		要努力	良	優		
①	対象者に合った内容だった	1	2	3	4	5
②	客観的で正確な情報があった	1	2	3	4	5
③	魅力がアピールできていた	1	2	3	4	5
④	動画またはスライドの展開、構成、わかりやすさ	1	2	3	4	5
⑤	音声や話し方の聞きやすさ、聞き手を飽きさせない工夫など	1	2	3	4	5
⑥	意思疎通、発表の流れやバランスなど、グループの協力体制	1	2	3	4	5
⑦		1	2	3	4	5

●良かったところ

●より良くするためのアドバイスや質問

●魅力度数

ほとんど魅力が 感じられなかった	あまり魅力が 感じられなかった	ふつう	魅力が 感じられた	とても魅力が 感じられた
---------------------	--------------------	-----	--------------	-----------------